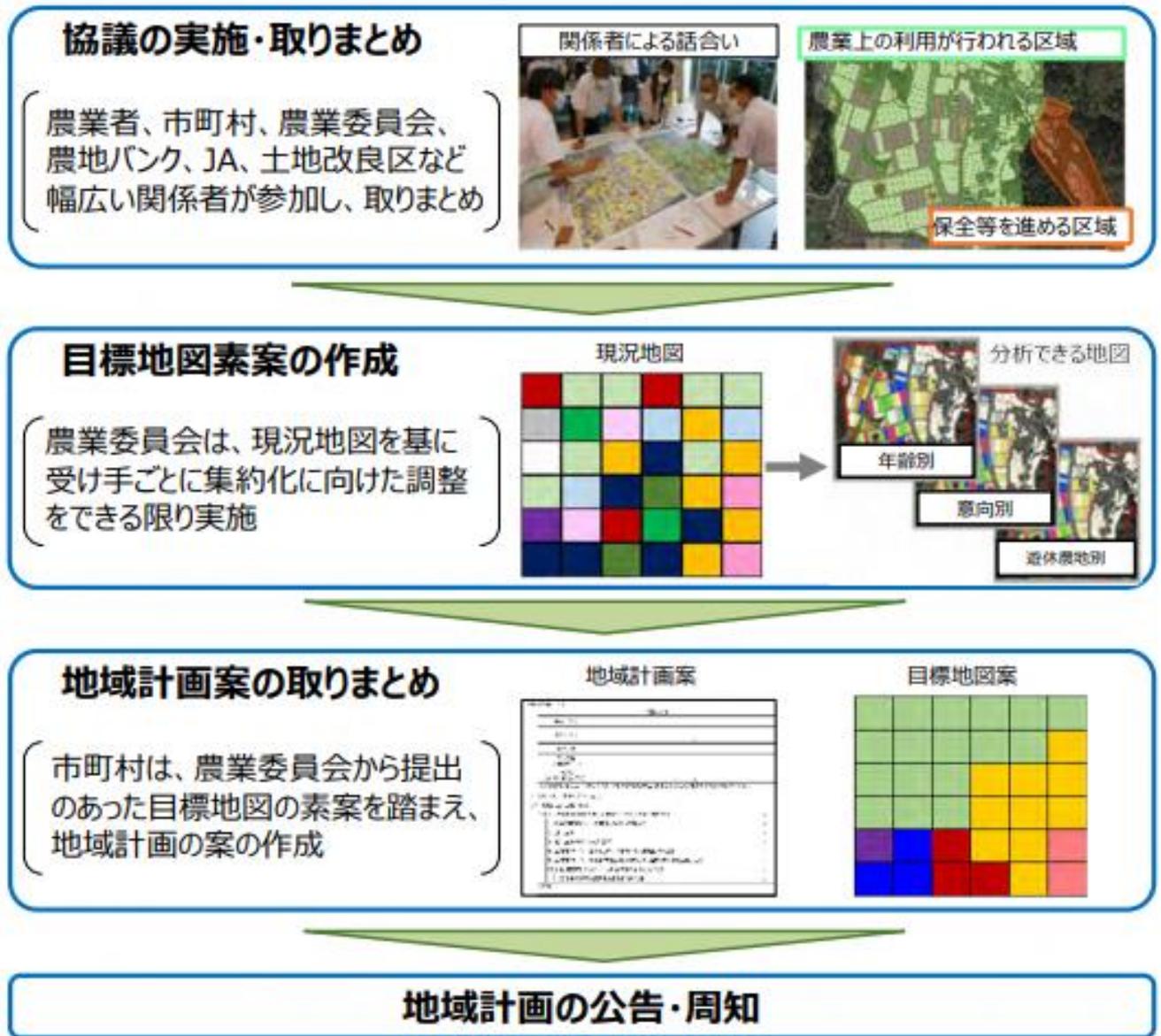


紫波町の地域計画作成に向けた 農業経営の意向調査の分析 I

～ 今後の営農意向調査の町合計と旧町村単位の集計とグラフ化 ～



令和 6 年 6 月

紫波町産業部 産業政策監

目 次

本報告書のねらい	- 1 -
分析結果の要約と今後の対応方向	- 5 -
1 営農状況	- 6 -
(1) 現在の営農状況	- 6 -
(2) 主たる経営作物	- 8 -
2 農業後継者の状況	- 10 -
(1) 後継者の有無	- 10 -
(2) 農業後継者の現在の状況	- 12 -
(3) 農業後継者の継承時期	- 14 -
3 今後の農業経営の意向	- 16 -
(1) 今後の農業経営の意向	- 16 -
(2) 経営規模拡大方法	- 18 -
(3) 経営規模を拡大する時期	- 21 -
(4) 経営規模を縮小する時期	- 23 -
(5) 経営規模縮小方法	- 25 -
(6) 拡大方法と縮小方法の乖離	- 27 -
(7) 拡大時期と縮小時期の乖離	- 28 -
4 農地の意向	- 30 -
(1) 農地バンクの活用について	- 30 -
(2) 農地の交換について	- 32 -
5 農作業委託の状況と今後の意向	- 34 -
< 資 料 >	- 36 -
1 農地バンクを活用したくない理由（自由記載、原文のまま）	- 36 -
2 農地交換をしたくない理由（自由記載、原文のまま）	- 41 -
3 意向調査結果から作成した一覧表	- 50 -
①経営規模拡大経営者一覧 67件	- 50 -
②農作業受委託者一覧 700件	- 50 -
③農作業委託希望者一覧 93件	- 50 -
④第三者継承希望者一覧 27件	- 50 -
4 意向調査票	- 51 -

本報告書のねらい

農業経営基盤強化促進法等の改正法が令和5年4月1日から施行され、従来の「人・農地プラン」は地域計画として法制化され、市町村では、令和7年3月までに地域計画を策定し、公表することとなりました。

これまで、地域での協議の場に提供する資料として以下の産業政策監調査研究報告を作成し町ホームページで公開してきました。

本報告書は、地域計画の作成に向けて紫波町で実施した農業の意向調査結果を分析したもので、現地の協議の場で地域の今後10年後の農業について考える際の定性的な情報として整理してあります。

本報告書を地域計画を作成する議論の場で活用していただければ幸いです。

地域計画作成に関して、これまでに公表してきた産業政策監調査研究報告は次ページの通りですので、本報告書と併せてご覧いただくと地域農業や担い手の現状についてより詳細な分析結果が分かります。

【意向調査の実施結果】

○調査時期

令和5年12月～令和6年2月

○対象農家数と回収率

	対象農家数	回答農家数	回答率
日詰地区	71	31	44%
古館地区	239	222	93%
水分地区	286	161	56%
志和地区	538	340	63%
赤石地区	338	209	62%
彦部地区	324	217	67%
佐比内地区	186	120	65%
赤沢地区	277	151	55%
長岡地区	248	180	73%
紫波町計	2,507	1,631	65%

地域計画作成に関する産業政策監調査研究報告

<農林業センサスに関する分析>

第 5 号「紫波町の農業生産構造動向分析」

～2020 年農林業センサス（概数値）データ分析から～

第 8 号「紫波町における旧町村別農業生産構造の特徴と人・農地プランの実践」

～2020 年農林業センサス 紫波町旧町村別データ分析～

第 9 号「紫波町の旧町村別農業生産構造の動向分析と今後の農業振興策の考え方」

～農林業センサス分析支援シート※を活用した 2010 年、2015 年、2020 年データの分析～

第 28 号「2020 年農林業センサス紫波町農業集落別データブック」

<農林業センサスを用いた将来予測に関する分析>

第 2 号「紫波町の農業経営体数の予測と農地の需給見通し」

～A I を用いた農業経営体予測モデルの活用に関する実証試験結果を踏まえ～

第 22 号「紫波町の作物別経営体数及び作付面積の推移と今後の見通し」

～農林業センサス個票の年齢階層別集計データを用いた農業経営体数と作付面積の試算～

第 26 号「地域計画作成に向けた農林業センサスの分析」

～地域農業分析支援シート及びA I による農業経営体数予測モデルの活用による～

<認定農業者に関する分析>

第 1 号「紫波町認定農業者の定量分析と農地の需要見通し」

～認定農業者関係データベースを活用した分析～

第 21 号「紫波町の認定農業者の特徴と農地の需給見通し」

～認定農業者経営改善計画の分析から～

第 27 号「地域計画の作成に向けた認定農業者の分析と農地の需給見通し」

～認定農業者の経営改善計画に基づく拡大目標面積と旧町村別農地の需給見通し

<集落営農に関する分析>

第 15 号「紫波町の集落営農の特徴と今後の方向」

～集落営農実態調査（農林水産省）の岩手県データの分析～

第 18 号「財務諸表の分析に基づく紫波町の集落営農の展開方向」

～集落営農実態調査と水田作経営の法人と集落営農の決算資料の分析～

第 29 号「地域計画の作成に向けた集落営農の分析」

～農林水産省集落営農実態調査の岩手県、紫波町データ分析～

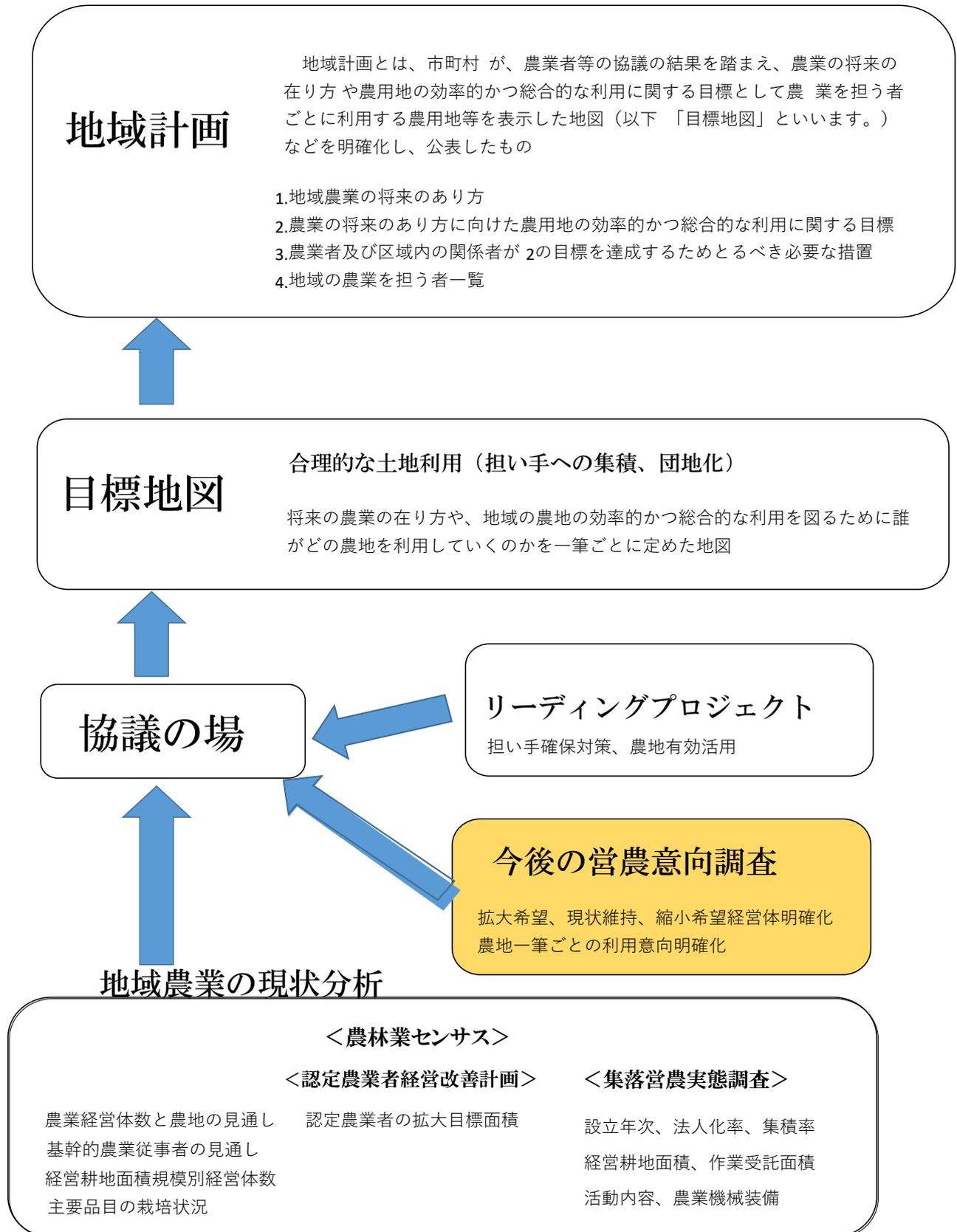
<新規就農者に関する分析>

第 24 号「紫波町の農業の担い手確保に向けた統計分析と対応方向」

～新規就農者調査、認定農業者経営改善計画、農林業センサス等の分析～

地域計画作成と本報告書の位置づけ

地域計画作成のフレーム



分析結果の要約と今後の対応方向

<分析結果の要約>

1 農業後継者

農業後継者の状況は、農業後継者がいるが40%、いないが53%となっています。しかしながら、農業後継者の現在の状況は、74%が農業以外に従事しています。

現在農業以外に従事している経営体の農業継承時期は、1年～5年後が13%、10年以上先が23%となっています。

当面、経営継承が行われる経営体は極めて少ないと見込まれます。

2 今後の農業経営の意向

今後の農業経営の意向は、経営規模を拡大するが4%、経営規模を縮小するが30%、現状維持が44%、無回答が22%となっています。経営規模を拡大する経営体数4%に対し、経営規模を縮小する経営体数が30%で7.5倍の乖離があることから、今後経営規模を縮小する経営体の農地の受け皿をどうするかが課題となります。

経営規模拡大方法では、農地購入が27%、農地借入が49%、作業受託が22%で、経営規模縮小方法は、農地を売るが36%、農地を貸すが34%、農作業を委託するが25%となっています。

農地を売りたい、貸したい、作業委託したいという経営体が多く、農地の買い手、借り手、作業受託をする経営体数が少ないという乖離があります。

経営規模を拡大する時期は、1年～5年後が73%で、6年～10年後が21%と早期に規模拡大する意向があるのに対し、経営規模を縮小する時期は、1年～5年後が51%と最も多いものの6年～10年後が38%あり、時間をかけて縮小する意向となっており、拡大時期と縮小時期に時期的な乖離があります。

3 農地の意向

農地バンクの活用については、活用したいが65%、活用したくないが16%、無回答が19%となっています。

農地の交換については、交換してもいいが39%、農地の交換はしないが36%、無回答が25%となっています。

農地バンクの活用に対するニーズは多く、農地交換についても可能性があると見込まれます。

4 農作業委託の状況と今後の意向

農作業委託については、委託していないが26%、委託しているが45%、今後、農作業を委託したいが6%、無回答が22%となっています。農作業を委託している割合が高い水分地区50%、赤石地区54%、長岡地区51%では、地区の核となる大規模法人が多くの委託者から作業を受託しています。

<今後の対応方向>

○個人経営体の営農意向調査結果では、規模縮小農家が規模拡大農家を大きく上回っているため地域の農地の受け皿となる水田作メガファームの育成が必要と考えられます。

○地域の農地の売買、貸借の需給の乖離と規模拡大と縮小時期の時間的乖離を調整するために農地中間管理事業を活用し地域の農地を一元的に管理する管理主体の創設が必要と考えられます。

※農地バンクの活用と農地交換については好意的な意向あり

1 営農状況

(1) 現在の営農状況

現在の営農状況は、町合計では、営農しているが69%、農地を所有しているが営農していないが30%となっています。

営農している割合が高い地区は、志和地区77%、長岡地区77%、佐比内地区75%となっています。

農地を所有しているが営農していない割合が高い地区は、古館地区40%、赤石地区34%、彦部地区35%となっています。

表 1-1 営農状況別経営体数 (単位：経営体)

	営農している	農地を所有しているが 営農していない	無回答	計
日詰地区	23	8	0	31
古館地区	129	88	5	222
水分地区	110	51	0	161
志和地区	261	79	0	340
赤石地区	132	71	6	209
彦部地区	133	76	8	217
佐比内地区	90	29	1	120
赤沢地区	104	47	0	151
長岡地区	138	42	0	180
紫波町合計	1,120	491	20	1,631

表 1-2 営農状況別経営体数割合

	営農している	農地を所有しているが 営農していない	無回答	計
日詰地区	74%	26%	0%	100%
古館地区	58%	40%	2%	100%
水分地区	68%	32%	0%	100%
志和地区	77%	23%	0%	100%
赤石地区	63%	34%	3%	100%
彦部地区	61%	35%	4%	100%
佐比内地区	75%	24%	1%	100%
赤沢地区	69%	31%	0%	100%
長岡地区	77%	23%	0%	100%
紫波町合計	69%	30%	1%	100%

図1-1 営農状況別経営体数割合（紫波町合計）

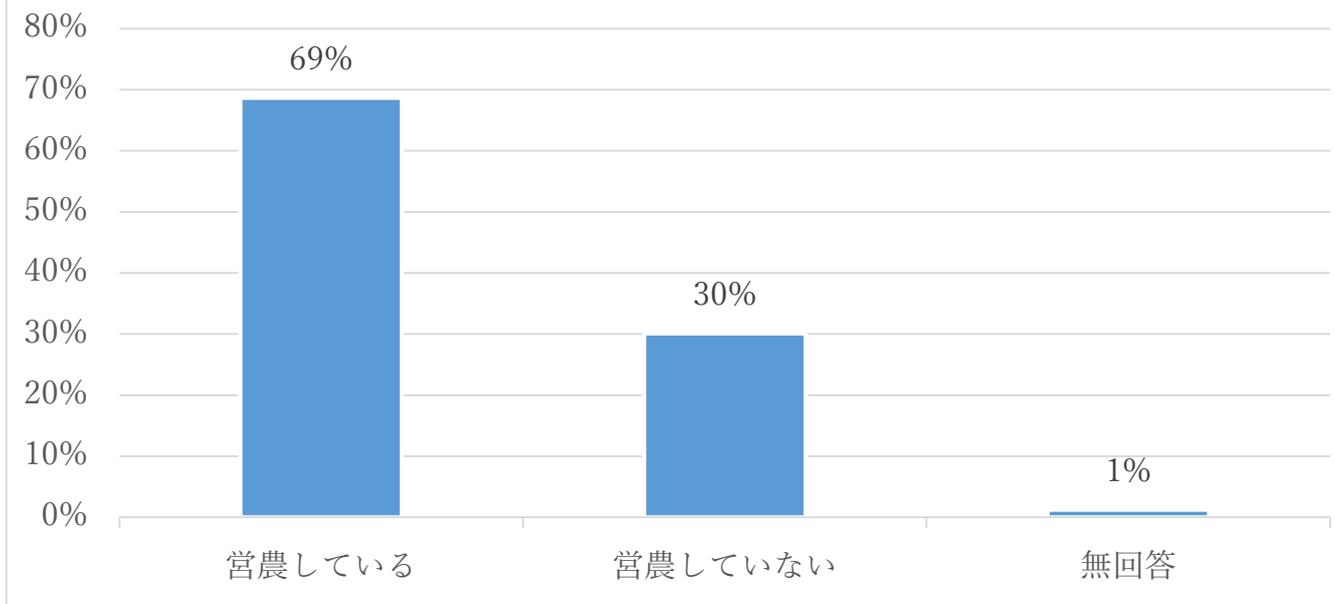
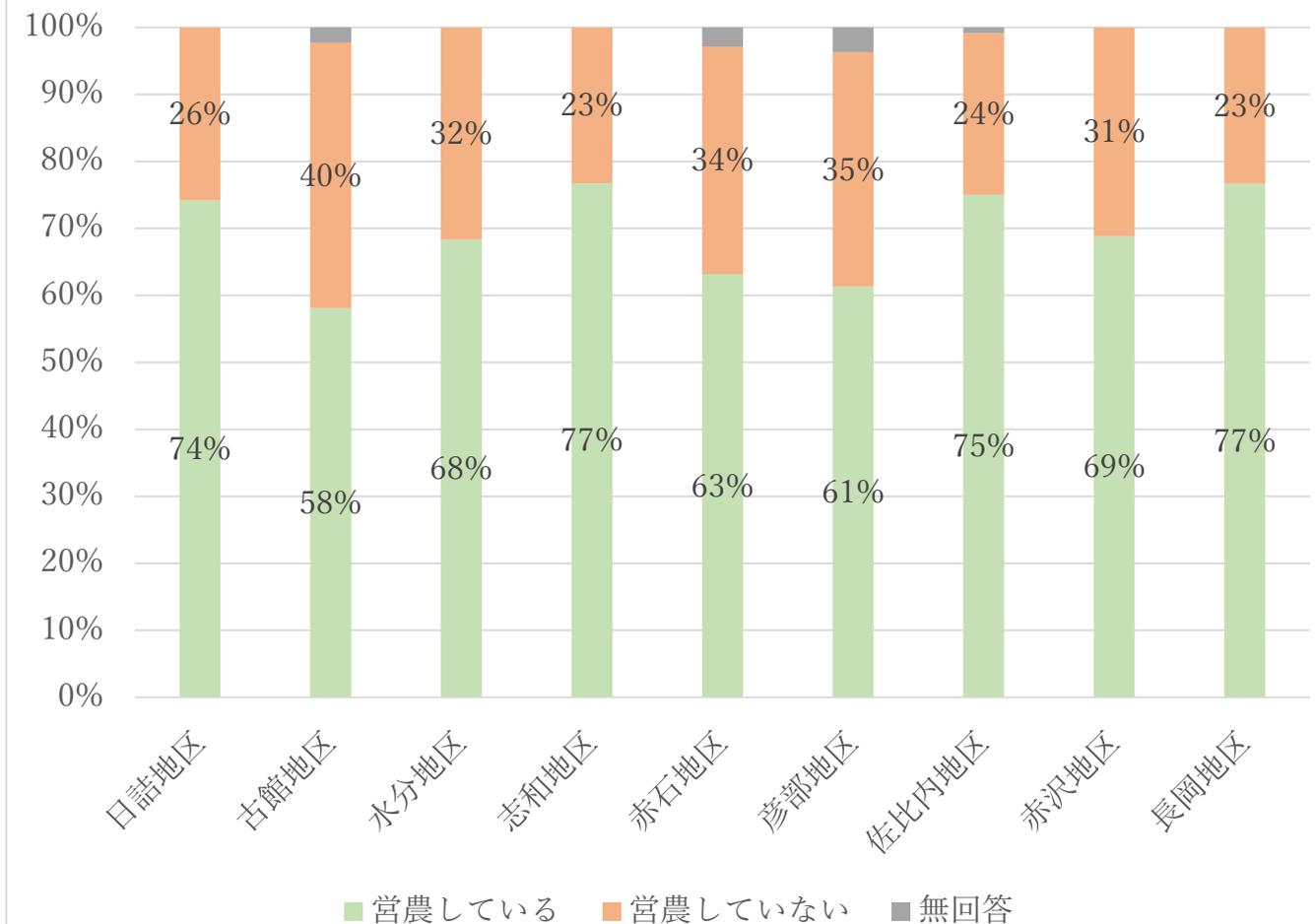


図1-2 営農状況別経営体数割合（地区別）



(2) 主たる経営作物

主たる経営作物は、町合計では、米 55%が最も高く、次いで露地野菜 17%、果樹 12%となっています。

作物別では、米の構成比が高いのは、水分地区 68%、志和地区 64%、赤石地区 60%、彦部地区 61%となっています。

露地野菜の構成比が高いのは、日詰地区 34%となっています。

果樹の構成比が高いのは、赤沢地区 35%、古館地区 29%、佐比内地区 21%となっています。

畜産の構成比が高いのは、志和地区 6%、水分地区 5%、赤石地区 5%となっています。

表 1-3 主たる経営作物別経営体数 (単位：経営体)

	米	米以外の 穀物	露地野菜	施設野菜	花き・花 木	果樹	畜産	合計
日詰地区	15	4	12	1	1	2	0	35
古館地区	90	3	45	5	2	60	1	206
水分地区	101	7	19	9	4	1	7	148
志和地区	249	34	49	16	7	12	25	392
赤石地区	119	31	28	7	4	1	9	199
彦部地区	126	12	37	15	7	6	4	207
佐比内地区	71	1	31	4	8	32	4	151
赤沢地区	83	3	28	7	2	67	4	194
長岡地区	121	12	53	9	6	33	3	237
紫波町合計	975	107	302	73	41	214	57	1,769

表 1-4 主たる経営作物別構成比

	米	米以外の 穀物	露地野菜	施設野菜	花き・花 木	果樹	畜産	合計
日詰地区	43%	11%	34%	3%	3%	6%	0%	100%
古館地区	44%	1%	22%	2%	1%	29%	0%	100%
水分地区	68%	5%	13%	6%	3%	1%	5%	100%
志和地区	64%	9%	13%	4%	2%	3%	6%	100%
赤石地区	60%	16%	14%	4%	2%	1%	5%	100%
彦部地区	61%	6%	18%	7%	3%	3%	2%	100%
佐比内地区	47%	1%	21%	3%	5%	21%	3%	100%
赤沢地区	43%	2%	14%	4%	1%	35%	2%	100%
長岡地区	51%	5%	22%	4%	3%	14%	1%	100%
紫波町合計	55%	6%	17%	4%	2%	12%	3%	100%

図1-3 主たる経営作物別経営体数割合（紫波町合計）

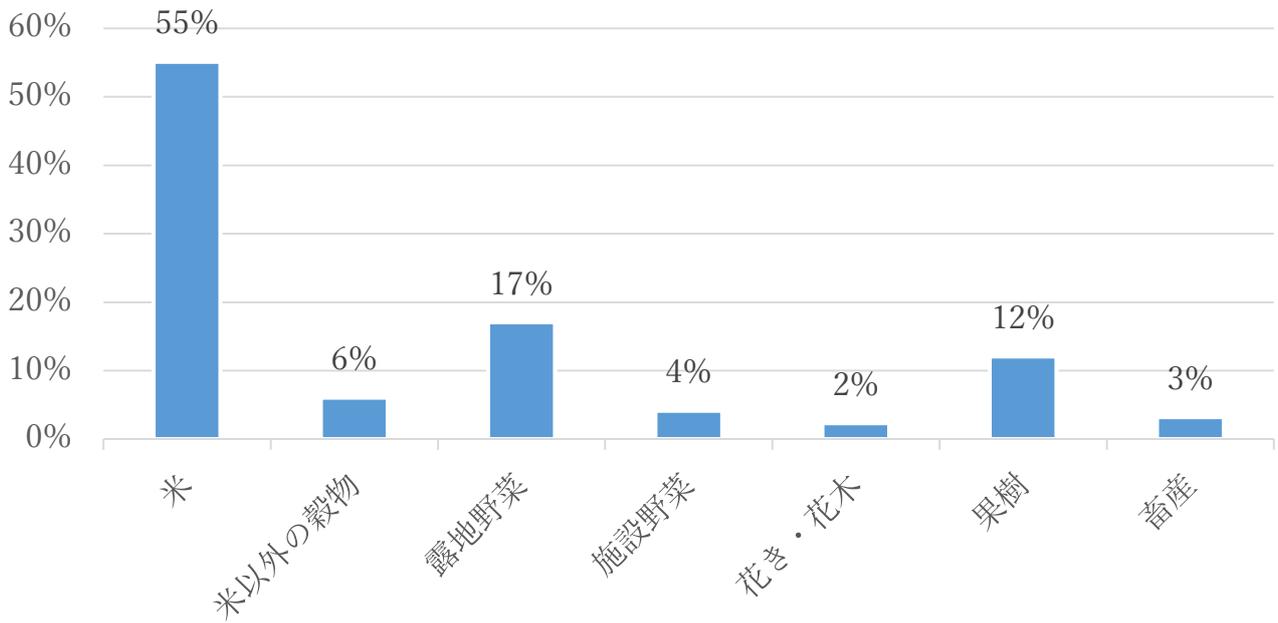
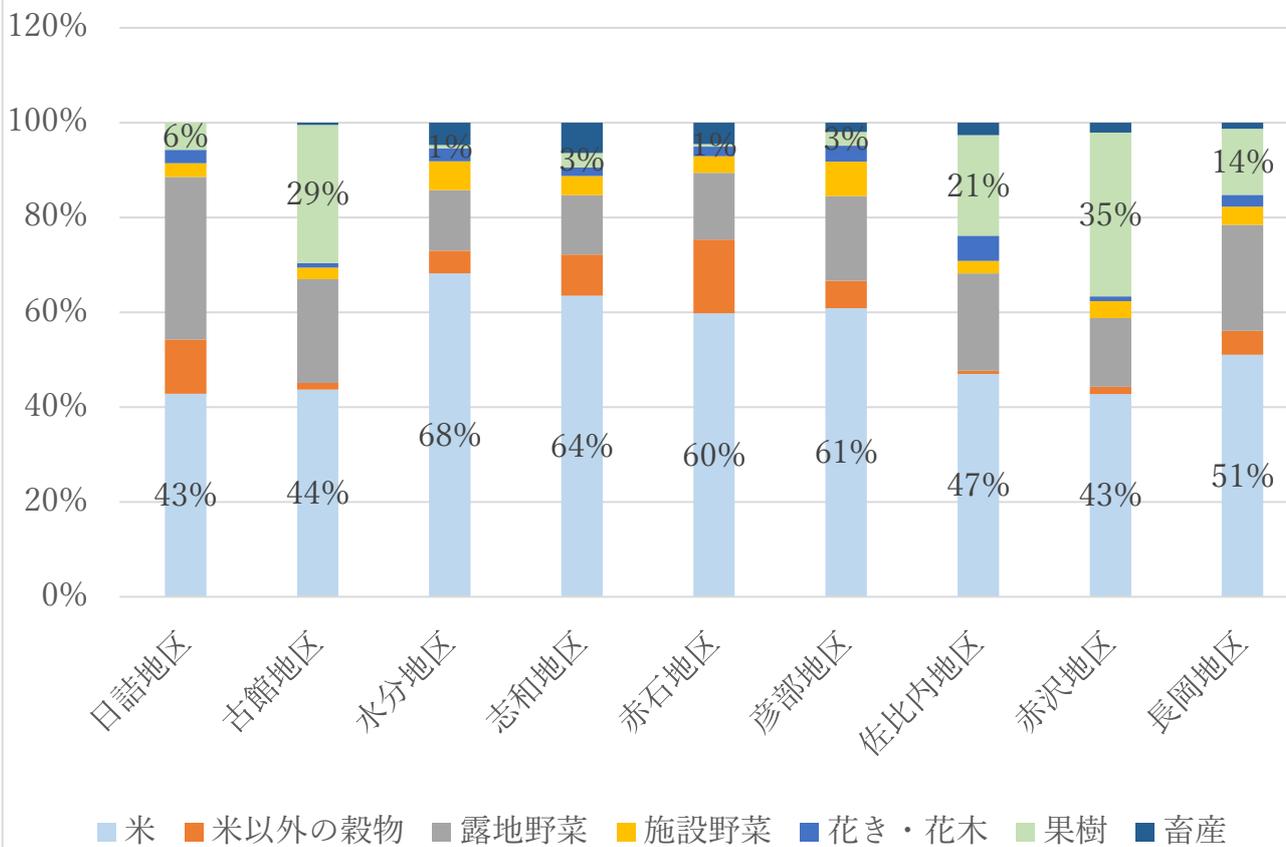


図1-4 主たる経営作物別経営体数割合（地区別）



2 農業後継者の状況

(1) 後継者の有無

町合計では、後継者がいる経営体が40%、後継者がいない経営体が53%となっています。

後継者がいる割合が高いのは、志和地区54%、日詰地区52%となっています。

後継者がいない割合が高いのは、古館地区66%、水分地区56%、佐比内地区58%、赤沢地区56%、となっています。

表 2-1 農業後継者の有無別経営体数 (単位：経営体)

	いる	いない	無回答	計
日詰地区	16	15	0	31
古館地区	53	146	23	222
水分地区	60	90	11	161
志和地区	182	150	8	340
赤石地区	86	112	11	209
彦部地区	87	109	21	217
佐比内地区	46	69	5	120
赤沢地区	56	85	10	151
長岡地区	72	95	13	180
紫波町合計	658	871	102	1,631

表 2-2 農業後継者の有無別構成比

	いる	いない	無回答	計
日詰地区	52%	48%	0%	100%
古館地区	24%	66%	10%	100%
水分地区	37%	56%	7%	100%
志和地区	54%	44%	2%	100%
赤石地区	41%	54%	5%	100%
彦部地区	40%	50%	10%	100%
佐比内地区	38%	58%	4%	100%
赤沢地区	37%	56%	7%	100%
長岡地区	40%	53%	7%	100%
紫波町合計	40%	53%	6%	100%

図2-1 農業後継者の有無別経営体数割合（紫波町合計）

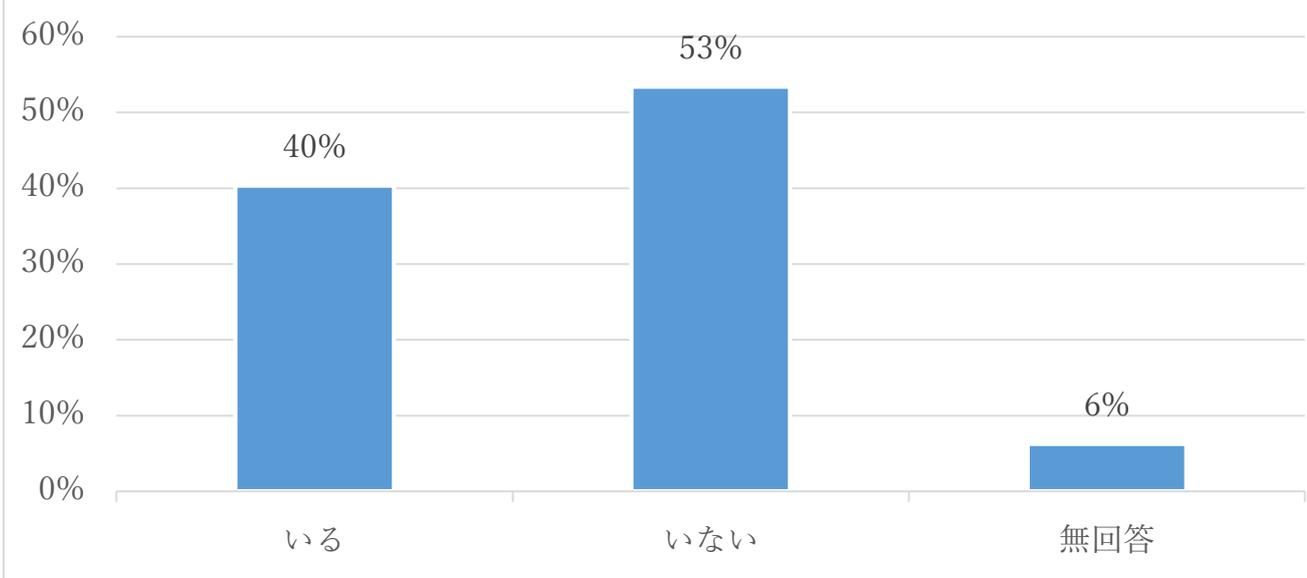
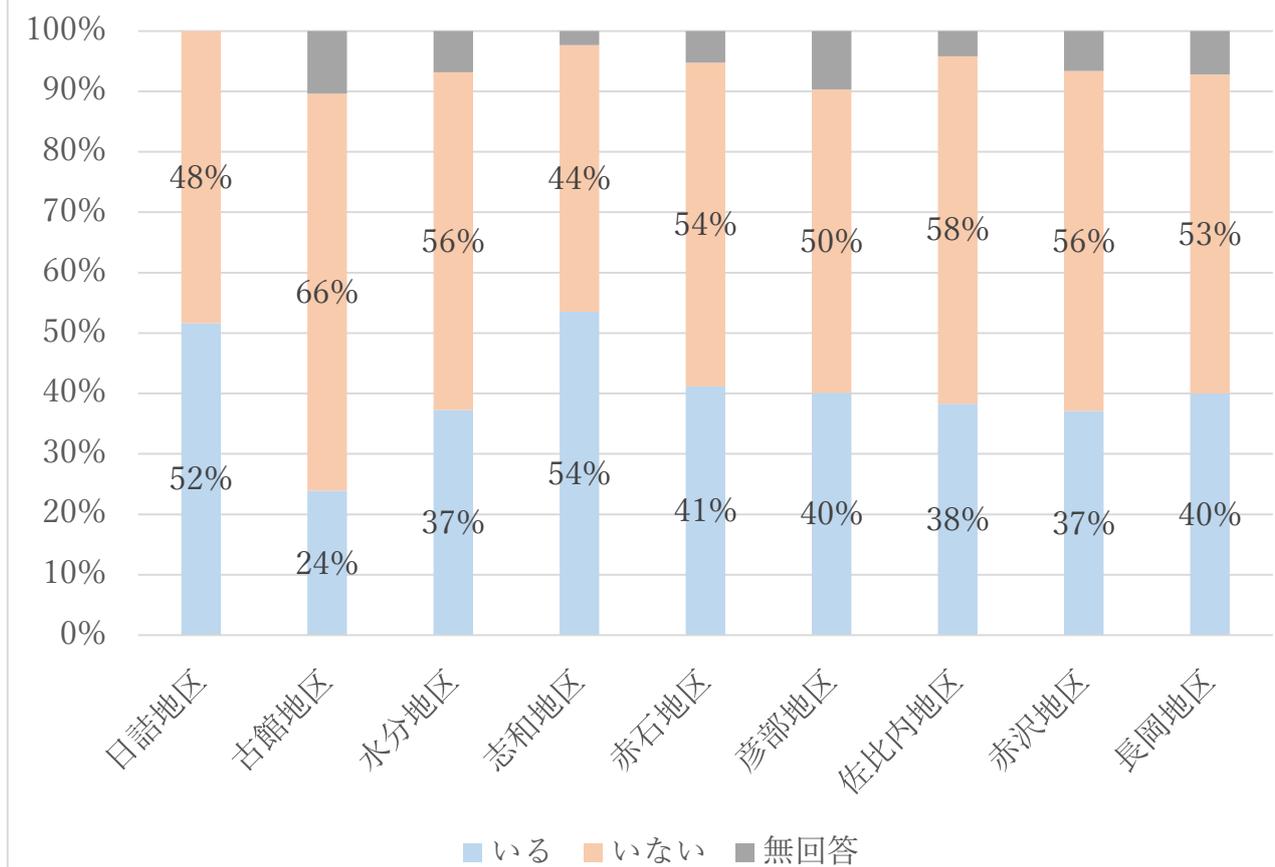


図2-2 農業後継者の有無別経営体数割合



(2) 農業後継者の現在の状況

農業後継者の現在の状況は、町合計では、農業以外に従事が74%、農業に従事が17%、就業中が2%となっています。

地区別では、農業以外に従事している割合が高いのは、日詰地区88%、赤石地区81%、彦部地区79%、長岡地区78%となっています。

農業に従事している割合が高いのは、赤沢地区29%、志和地区22%となっています。

表 2-3 農業後継者の現在の状況別経営体数 (単位：経営体)

	就学中	農業以外に従事	農業に従事	無回答	計
日詰地区	0	14	1	1	16
古館地区	4	37	4	8	53
水分地区	1	42	11	6	60
志和地区	1	134	40	7	182
赤石地区	0	70	9	7	86
彦部地区	1	69	12	5	87
佐比内地区	1	35	6	4	46
赤沢地区	4	33	16	3	56
長岡地区	1	56	10	5	72
紫波町合計	13	490	109	46	658

表 2-4 農業後継者の現在の状況別経営体数割合

	就学中	農業以外に従事	農業に従事	無回答	計
日詰地区	0%	88%	6%	6%	100%
古館地区	8%	70%	8%	15%	100%
水分地区	2%	70%	18%	10%	100%
志和地区	1%	74%	22%	4%	100%
赤石地区	0%	81%	10%	8%	100%
彦部地区	1%	79%	14%	6%	100%
佐比内地区	2%	76%	13%	9%	100%
赤沢地区	7%	59%	29%	5%	100%
長岡地区	1%	78%	14%	7%	100%
紫波町合計	2%	74%	17%	7%	100%

図2-3 農業後継者の現在の状況別経営体数割合（紫波町合計）

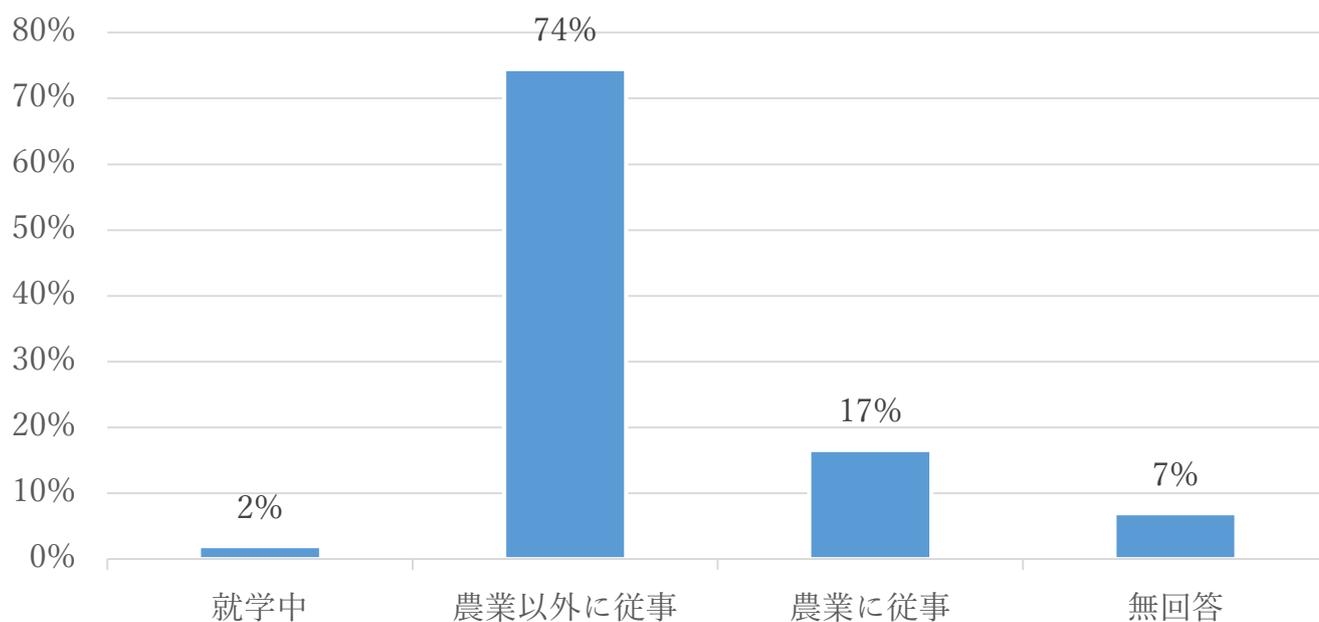
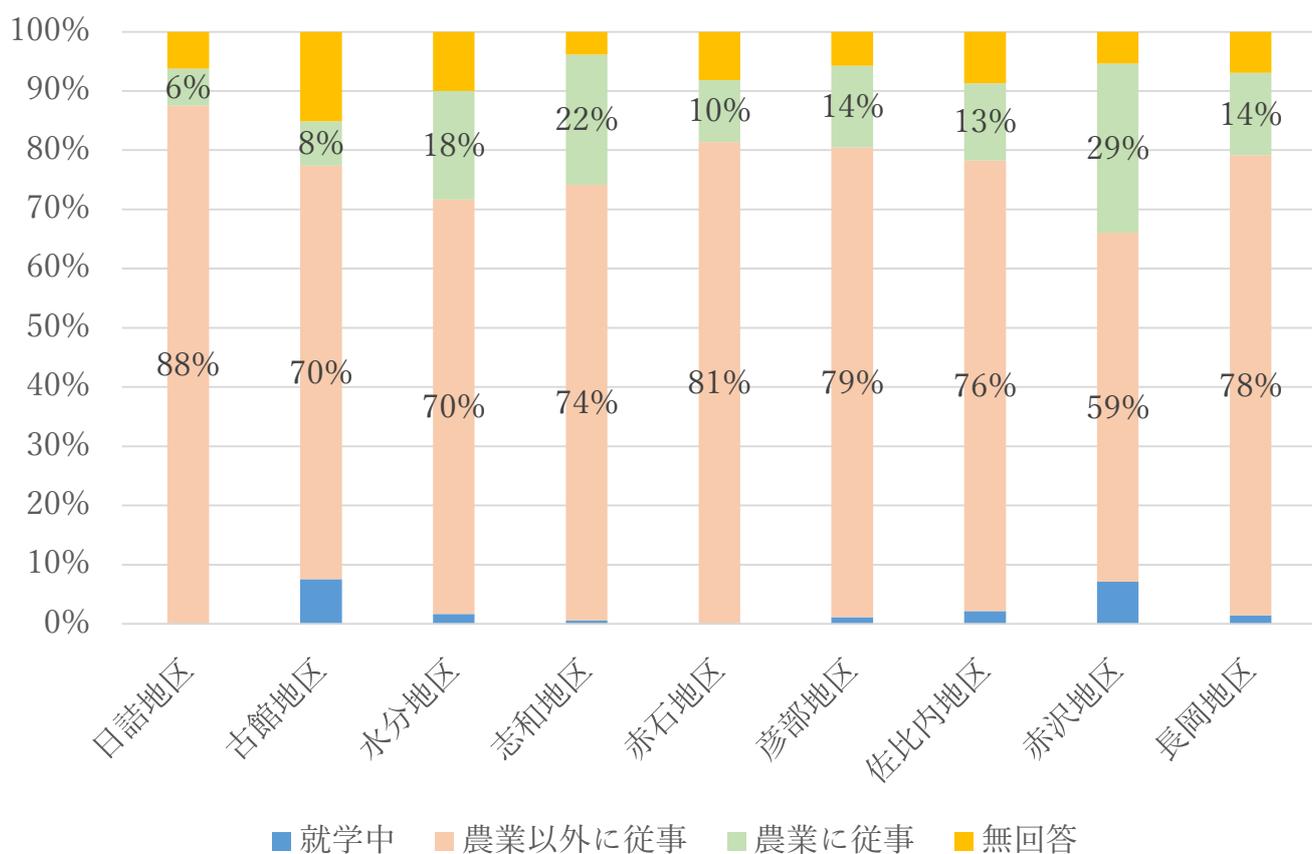


図2-4 農業後継者の現在の状況別経営体数割合



(3) 農業後継者の継承時期

農業後継者の継承時期は、町合計では、10年以上先が28%で最も高く、次いで6年～10年後の20%、1年～5年後は19%となっています。

農業後継者の現在の状況が農業以外に従事している経営体の継承時期は10年以上先が23%、次いで6年～10年後が17%、1年～5年後が13%となっています。

表 2-5 農業後継者の継承時期別経営体数（現在の状況合計）（単位：経営体）

	合 計			
	1年～5年後	6年～10年後	10年以上先	無回答
日詰地区	1	5	4	6
古館地区	8	5	16	24
水分地区	13	12	13	22
志和地区	38	32	44	68
赤石地区	10	22	29	25
彦部地区	20	22	29	16
佐比内地区	7	8	13	18
赤沢地区	10	11	12	23
長岡地区	15	17	23	17
紫波町合計	122	134	183	219

表 2-6 農業後継者の継承時期別経営体数割合（現在の状況合計）

	合 計			
	1年～5年後	6年～10年後	10年以上先	無回答
日詰地区	6%	31%	25%	38%
古館地区	15%	9%	30%	45%
水分地区	22%	20%	22%	37%
志和地区	21%	18%	24%	37%
赤石地区	12%	26%	34%	29%
彦部地区	23%	25%	33%	18%
佐比内地区	15%	17%	28%	39%
赤沢地区	18%	20%	21%	41%
長岡地区	21%	24%	32%	24%
紫波町合計	19%	20%	28%	33%

図2-5 現在の状況が農業以外に従事の継承時期別経営体数割合
(紫波町計)

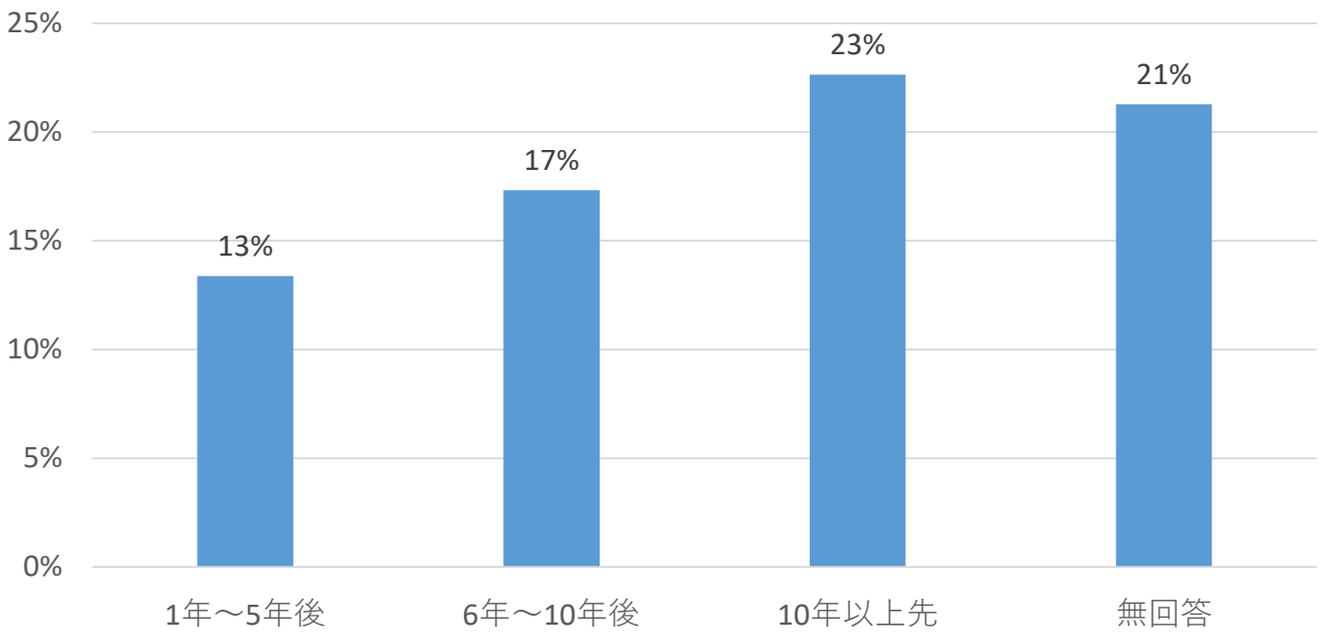
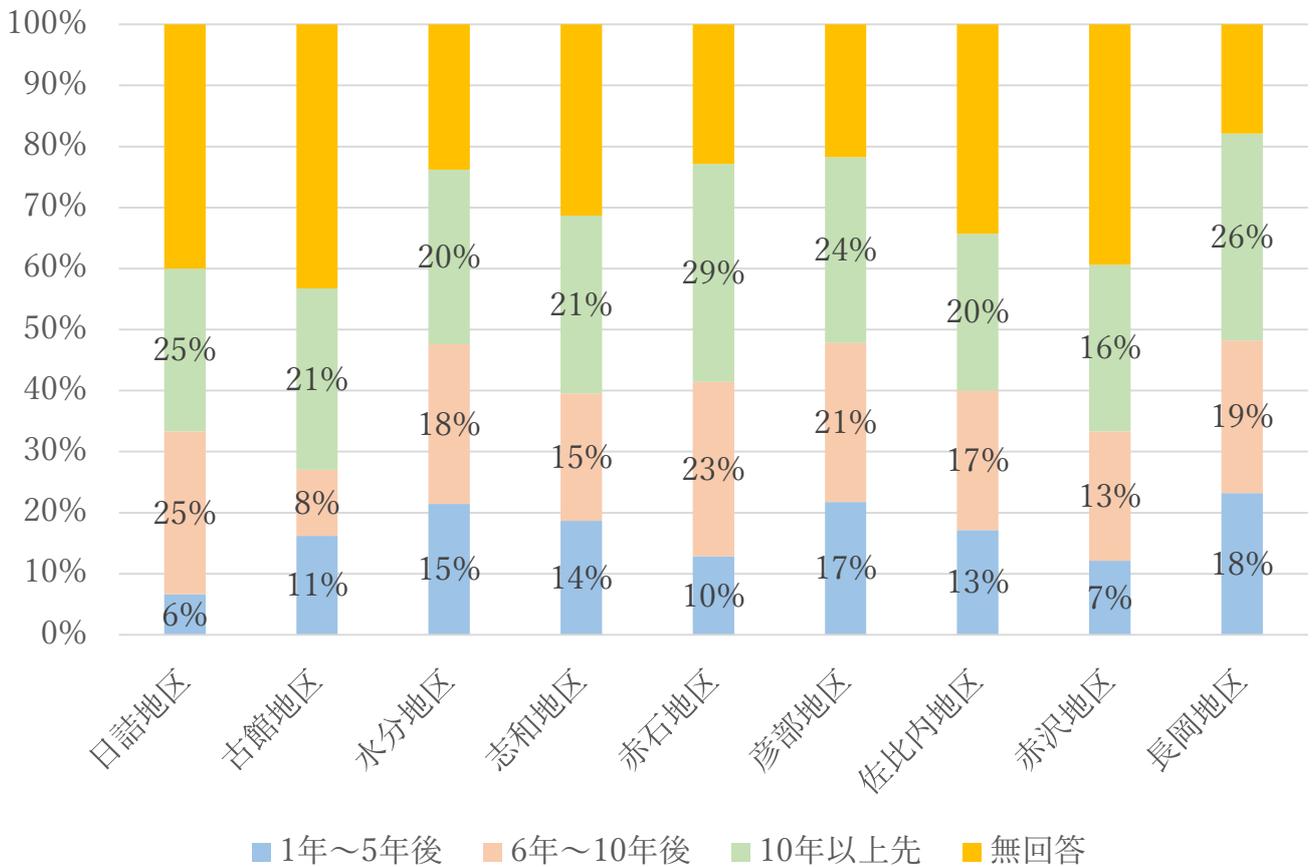


図2-6 現在の状況が農業以外に従事の継承時期別経営体数割合



3 今後の農業経営の意向

(1) 今後の農業経営の意向

今後の農業経営の意向は、町合計では、経営規模拡大が4%、経営規模縮小が30%、経営規模は現状維持とするが44%となっています。

経営規模を拡大する割合が高いのは、水分地区7%、志和地区7%、長岡地区7%となっています。

経営規模を縮小する割合が高いのは、佐比内地区39%、古館地区36%、赤沢地区35%となっています。

表 3-1 今後の農業経営の意向別経営体数

(単位：経営体)

	経営規模を拡大する	経営規模を縮小する	経営規模は現状維持とする	無回答	計
日詰地区	2	9	16	4	31
古館地区	2	80	71	69	222
水分地区	12	52	62	35	161
志和地区	23	87	169	59	338
赤石地区	3	58	102	46	209
彦部地区	6	50	107	54	217
佐比内地区	3	47	55	15	120
赤沢地区	4	53	62	32	151
長岡地区	12	50	79	39	180
紫波町合計	67	486	723	353	1,629

表 3-2 今後の農業経営の意向別経営体数割合

	経営規模を拡大する	経営規模を縮小する	経営規模は現状維持とする	無回答	計
日詰地区	6%	29%	52%	13%	100%
古館地区	1%	36%	32%	31%	100%
水分地区	7%	32%	39%	22%	100%
志和地区	7%	26%	50%	17%	100%
赤石地区	1%	28%	49%	22%	100%
彦部地区	3%	23%	49%	25%	100%
佐比内地区	3%	39%	46%	13%	100%
赤沢地区	3%	35%	41%	21%	100%
長岡地区	7%	28%	44%	22%	100%
紫波町合計	4%	30%	44%	22%	100%

図3-1 今後の農業経営の意向別経営体数割合（紫波町合計）

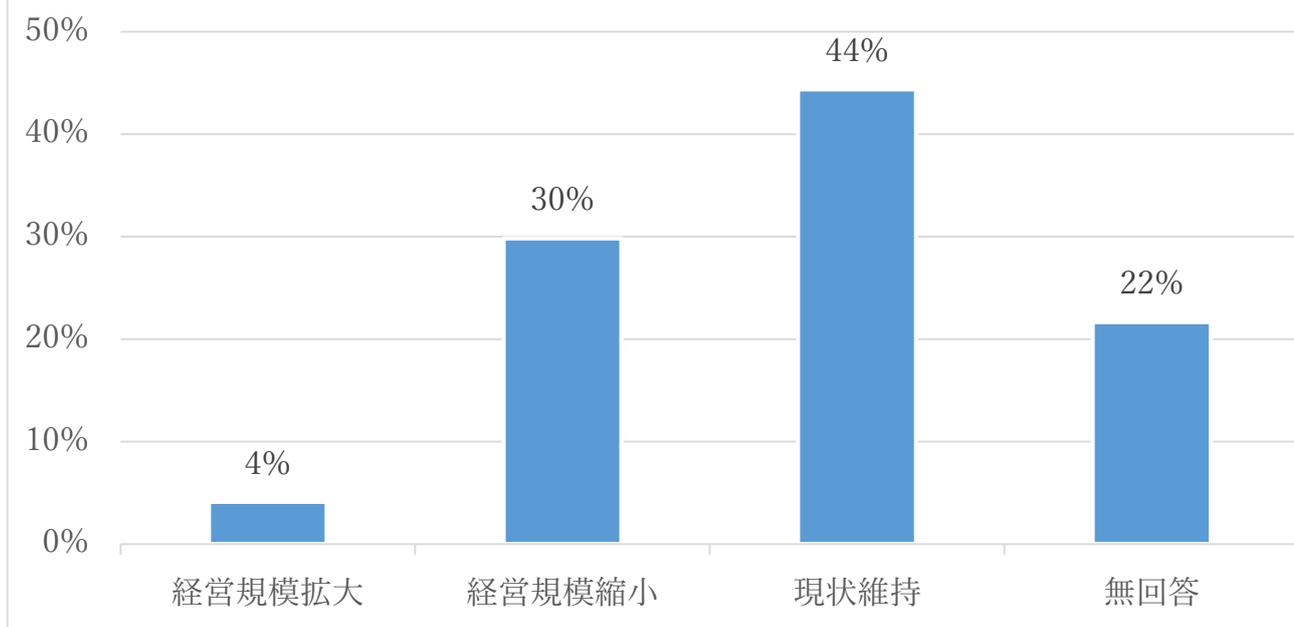
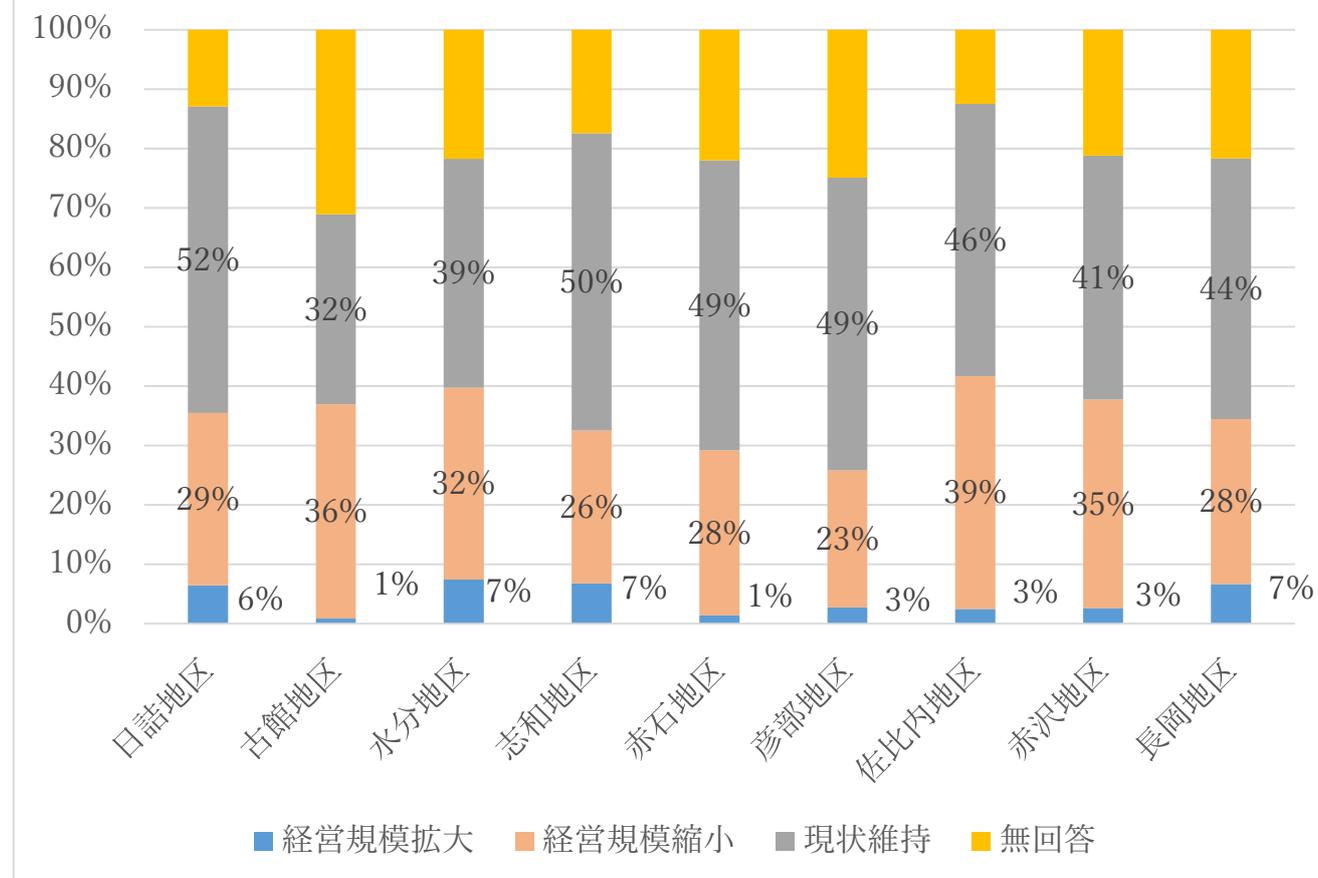


図3-2 今後の農業経営の意向別経営体数割合（地区別）



(2) 経営規模拡大方法

経営規模拡大方法は、町合計では、農地を借りるが49%、農地を購入するが27%、作業を受託するが22%となっています。

地区別で農地を購入する割合が高いのは、彦部地区44%、長岡地区39%、日詰地区33%となっています。古館地区、赤石地区、佐比内地区、赤沢地区では0%となっています。

農地を借りて経営規模を拡大する割合が高いのは、日詰地区67%、古館地区67%、水分地区65%、赤石地区67%となっています。農作業受託で経営規模拡大を図る割合が高いのは、佐比内地区67%、古館地区33%、赤石地区33%、長岡地区33%となっています。

町合計の拡大面積は、田が179.3ha、畑3.35ha、樹園地1.1haとなっています。

田の拡大面積は、志和地区100ha、長岡地区27.8ha、水分地区19.5haで多くなっています。

表 3-3 経営規模拡大方法別経営地数

(単位：経営体)

	農地を購入する	農地を借りる	農作業を受託する	無回答	計
日詰地区	1	2	0	0	3
古館地区	0	2	1	0	3
水分地区	4	11	2	0	17
志和地区	10	19	7	0	36
赤石地区	0	2	1	0	3
彦部地区	4	4	1	0	9
佐比内地区	0	0	2	1	3
赤沢地区	0	2	1	1	4
長岡地区	7	5	6	0	18
紫波町合計	26	47	21	2	96

表 3-4 経営規模拡大方法別経営体数割合

	農地を購入する	農地を借りる	農作業を受託する	無回答	計
日詰地区	33%	67%	0%	0%	100%
古館地区	0%	67%	33%	0%	100%
水分地区	24%	65%	12%	0%	100%
志和地区	28%	53%	19%	0%	100%
赤石地区	0%	67%	33%	0%	100%
彦部地区	44%	44%	11%	0%	100%
佐比内地区	0%	0%	67%	33%	100%
赤沢地区	0%	50%	25%	25%	100%
長岡地区	39%	28%	33%	0%	100%
紫波町合計	27%	49%	22%	2%	100%

図3-3 経営規模拡大方法別経営体数割合（紫波町合計）

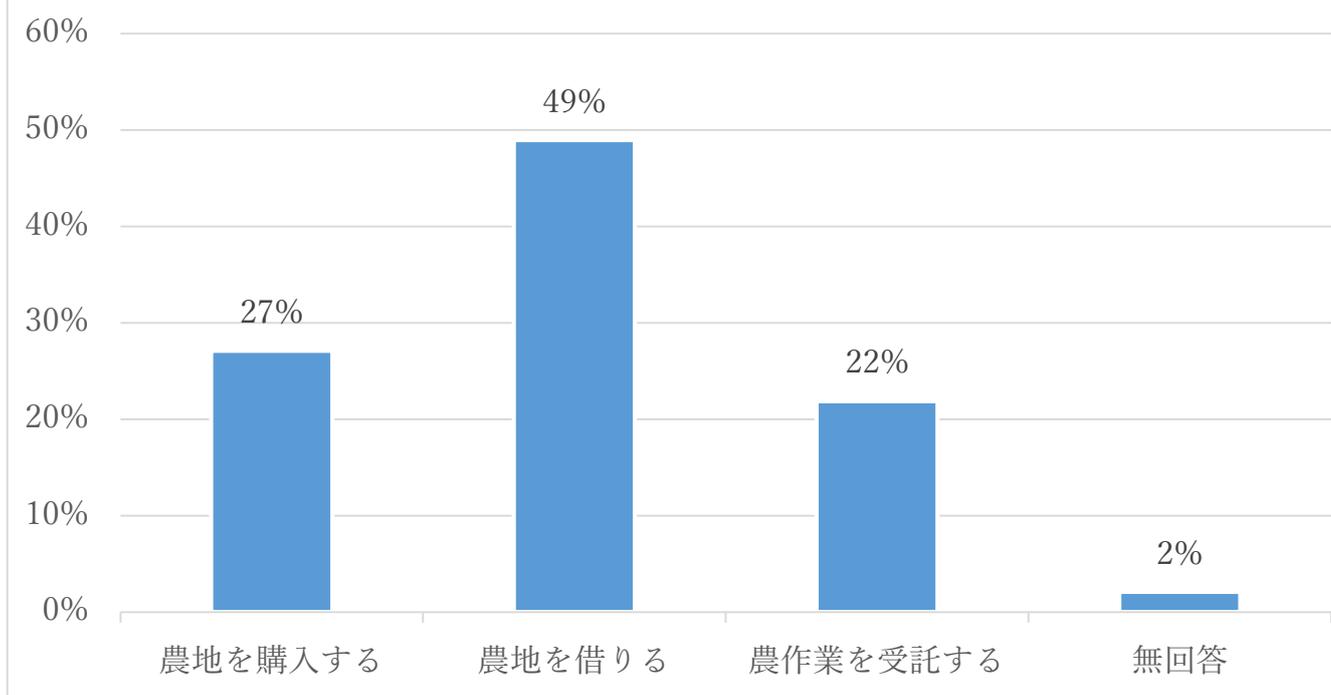


図3-4 経営規模拡大方法別経営体数割合（地区別）

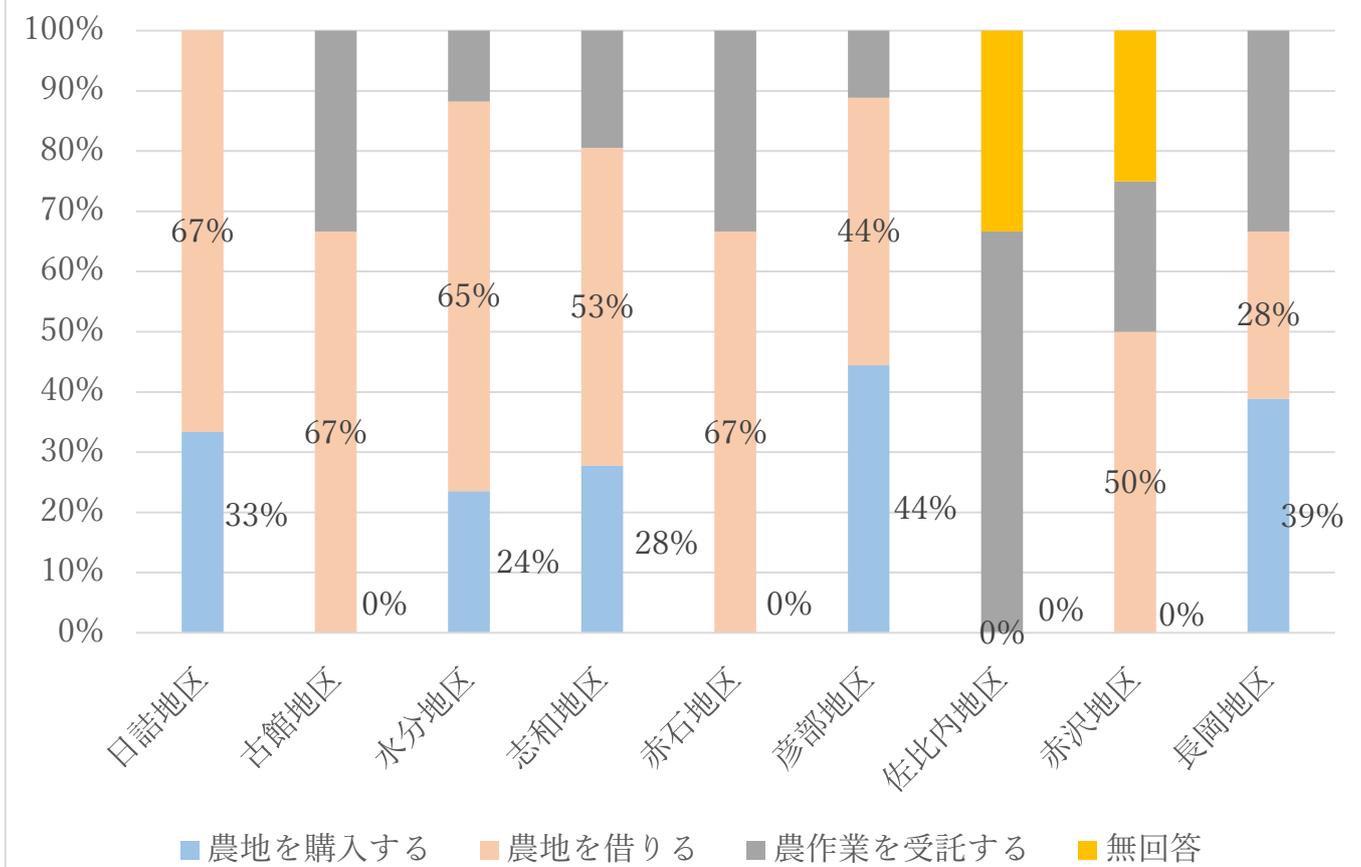
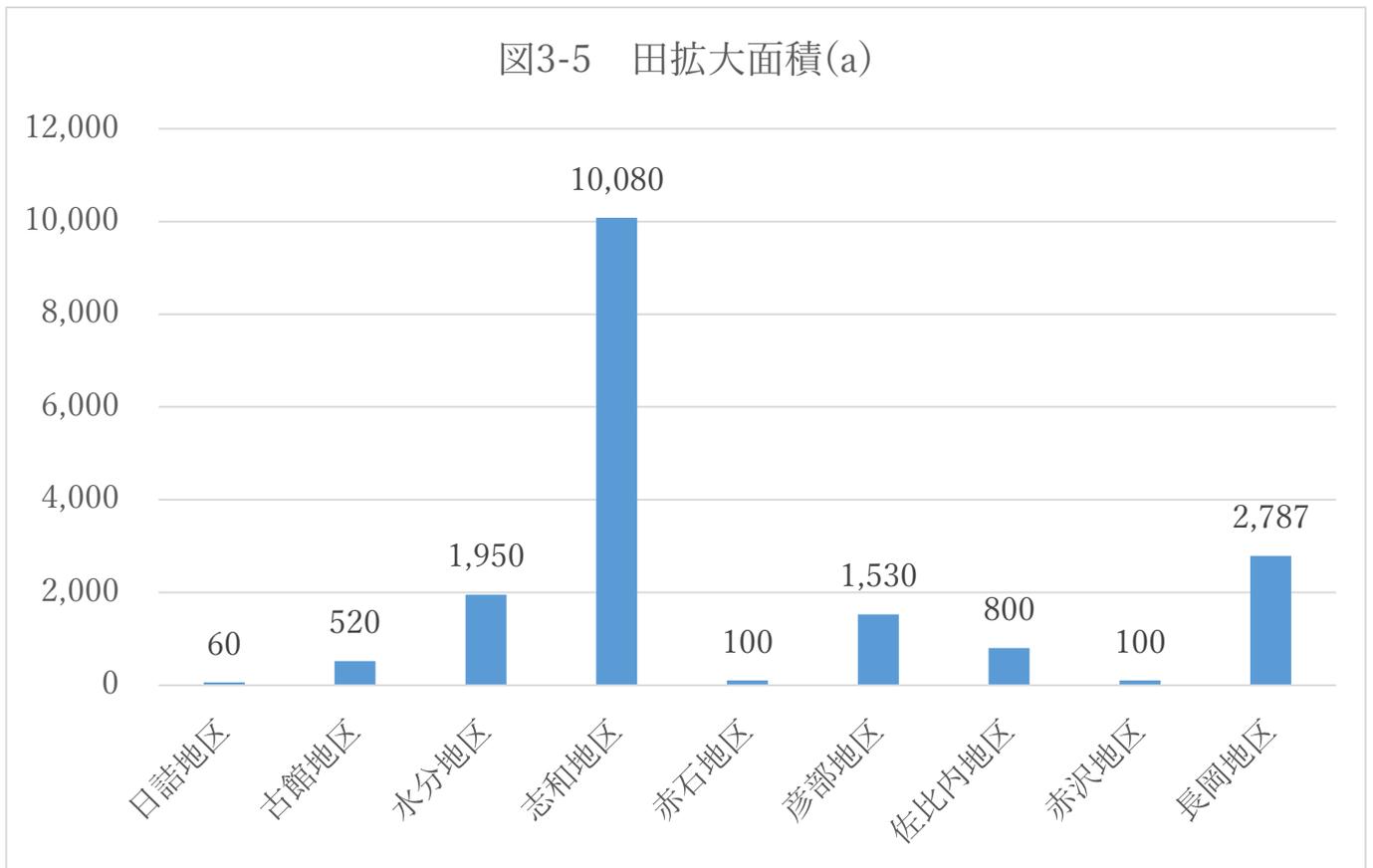


表 3-5 地区・地目別拡大面積

	拡大地目	拡大面積 (a)	その他地目	拡大面積(a)
日詰地区	田	60		
古館地区	田	520		
水分地区	田	1,950	樹園地	20
志和地区	田	10,080	畑	295
赤石地区	田	100	樹園地	50
彦部地区	田	1,530	畑	30
佐比内地区	田	800		
赤沢地区	田	100	樹園地	40
長岡地区	田	2,787	畑	10
紫波町合計	田	17,927		
	畑	335		
	樹園地	110		

図3-5 田拡大面積(a)



(3) 経営規模を拡大する時期

経営規模を拡大する時期は、町合計では、1年～5年後が73%、次いで6年～10年後が21%となっています。

地区別では、1年～5年後に拡大する割合が高いのは、日詰地区100%、古館地区100%、赤石地区100%となっています。

6年～10年後に拡大する割合が高いのは、長岡地区33%、水分地区25%、赤沢地区25%となっています。

表3-6 経営規模を拡大する時期別経営体数

(単位：経営体)

	1年～5年後	6年～10年後	10年以上先	無回答	計
日詰地区	2	0	0	0	2
古館地区	2	0	0	0	2
水分地区	8	3	0	1	12
志和地区	17	5	0	1	23
赤石地区	3	0	0	0	3
彦部地区	5	1	0	0	6
佐比内地区	2	0	0	1	3
赤沢地区	3	1	0	0	4
長岡地区	7	4	0	1	12
紫波町合計	49	14	0	4	67

表3-7 経営規模を拡大する時期別経営体数割合

	1年～5年後	6年～10年後	10年以上先	無回答	計
日詰地区	100%	0%	0%	0%	100%
古館地区	100%	0%	0%	0%	100%
水分地区	67%	25%	0%	8%	100%
志和地区	74%	22%	0%	4%	100%
赤石地区	100%	0%	0%	0%	100%
彦部地区	83%	17%	0%	0%	100%
佐比内地区	67%	0%	0%	33%	100%
赤沢地区	75%	25%	0%	0%	100%
長岡地区	58%	33%	0%	8%	100%
紫波町合計	73%	21%	0%	6%	100%

図3-6 経営規模を拡大する時期別経営体数割合（紫波町合計）

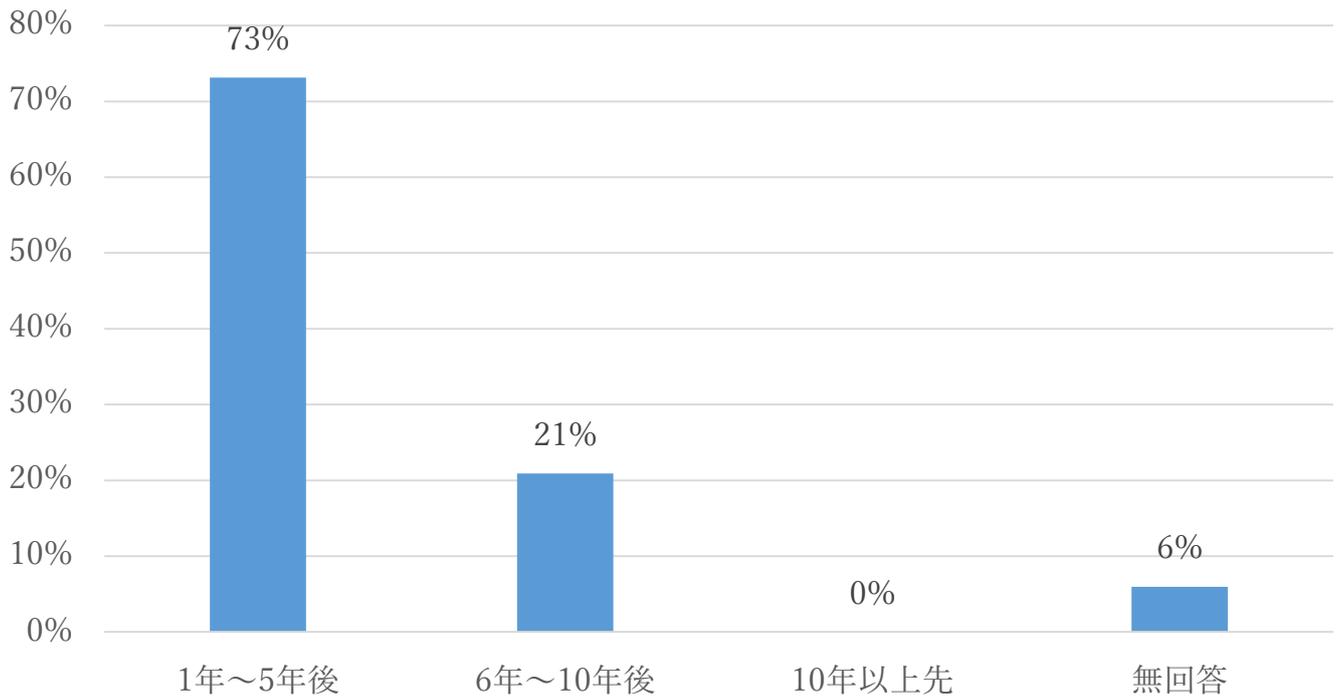
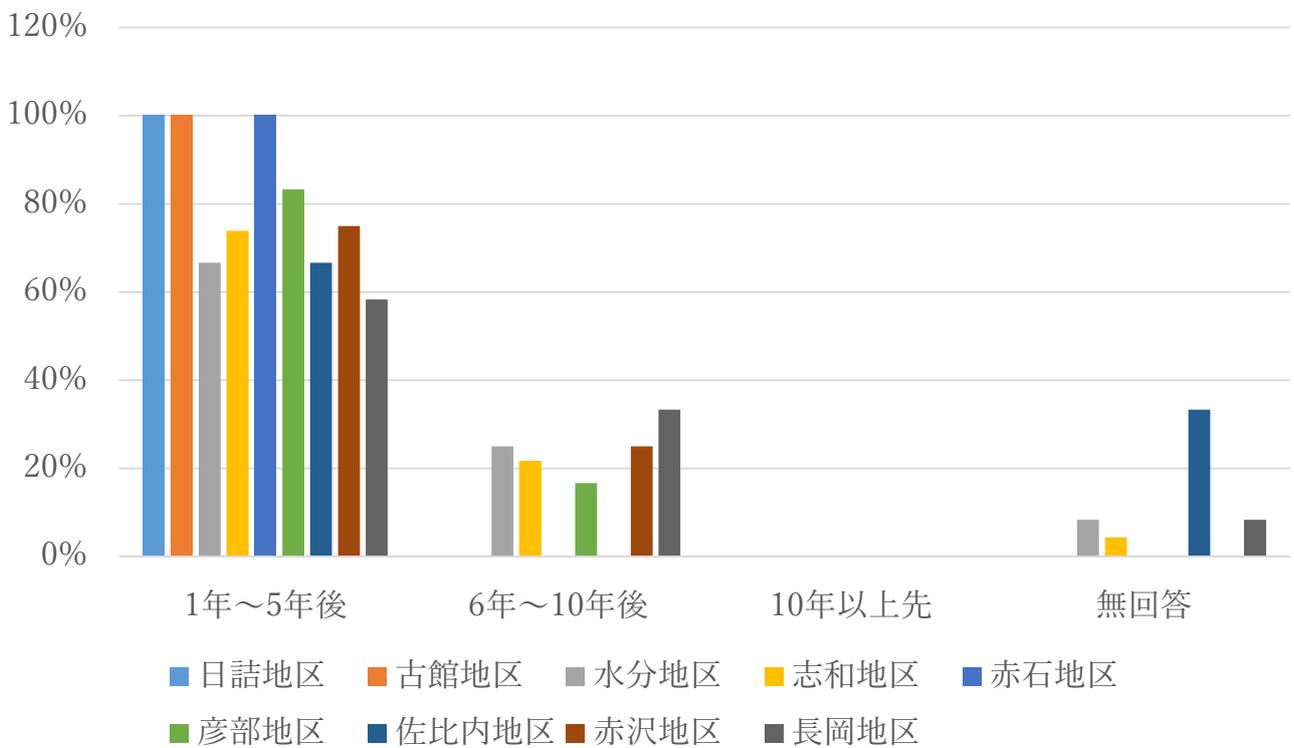


図3-7 経営規模を拡大する時期別経営体数割合（地区別）



(4) 経営規模を縮小する時期

経営規模を縮小する時期は、町合計では、1年～5年後が51%、6年～10年後が38%となっています。

1年～5年後に規模を縮小する割合が高い地区は、彦部地区62%、日詰地区56%、古館地区56%となっています。

表 3-8 経営規模を縮小する時期別経営体数 (単位：経営体)

	1年～5年後	6年～10年後	10年以上先	無回答	計
日詰地区	5	4	0	0	9
古館地区	45	24	0	11	80
水分地区	27	15	10	0	52
志和地区	39	37	0	11	87
赤石地区	27	24	0	7	58
彦部地区	31	16	0	3	50
佐比内地区	22	20	0	5	47
赤沢地区	25	20	0	8	53
長岡地区	25	25	0	0	50
紫波町合計	246	185	10	45	486

表 3-9 経営規模を縮小する時期別経営体数割合

	1年～5年後	6年～10年後	10年以上先	無回答	計
日詰地区	56%	44%	0%	0%	100%
古館地区	56%	30%	0%	14%	100%
水分地区	52%	29%	19%	0%	100%
志和地区	45%	43%	0%	13%	100%
赤石地区	47%	41%	0%	12%	100%
彦部地区	62%	32%	0%	6%	100%
佐比内地区	47%	43%	0%	11%	100%
赤沢地区	47%	38%	0%	15%	100%
長岡地区	50%	50%	0%	0%	100%
紫波町合計	51%	38%	2%	9%	100%

図3-8 経営規模を縮小する時期別経営体割合（紫波町合計）

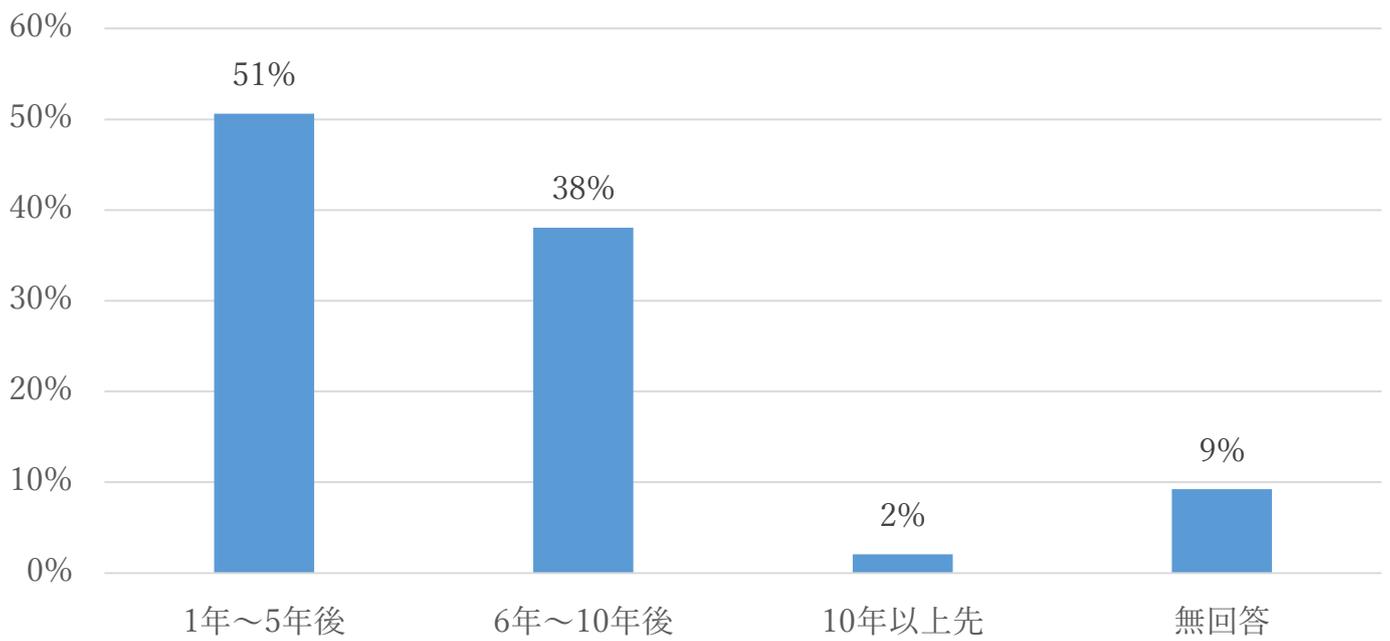
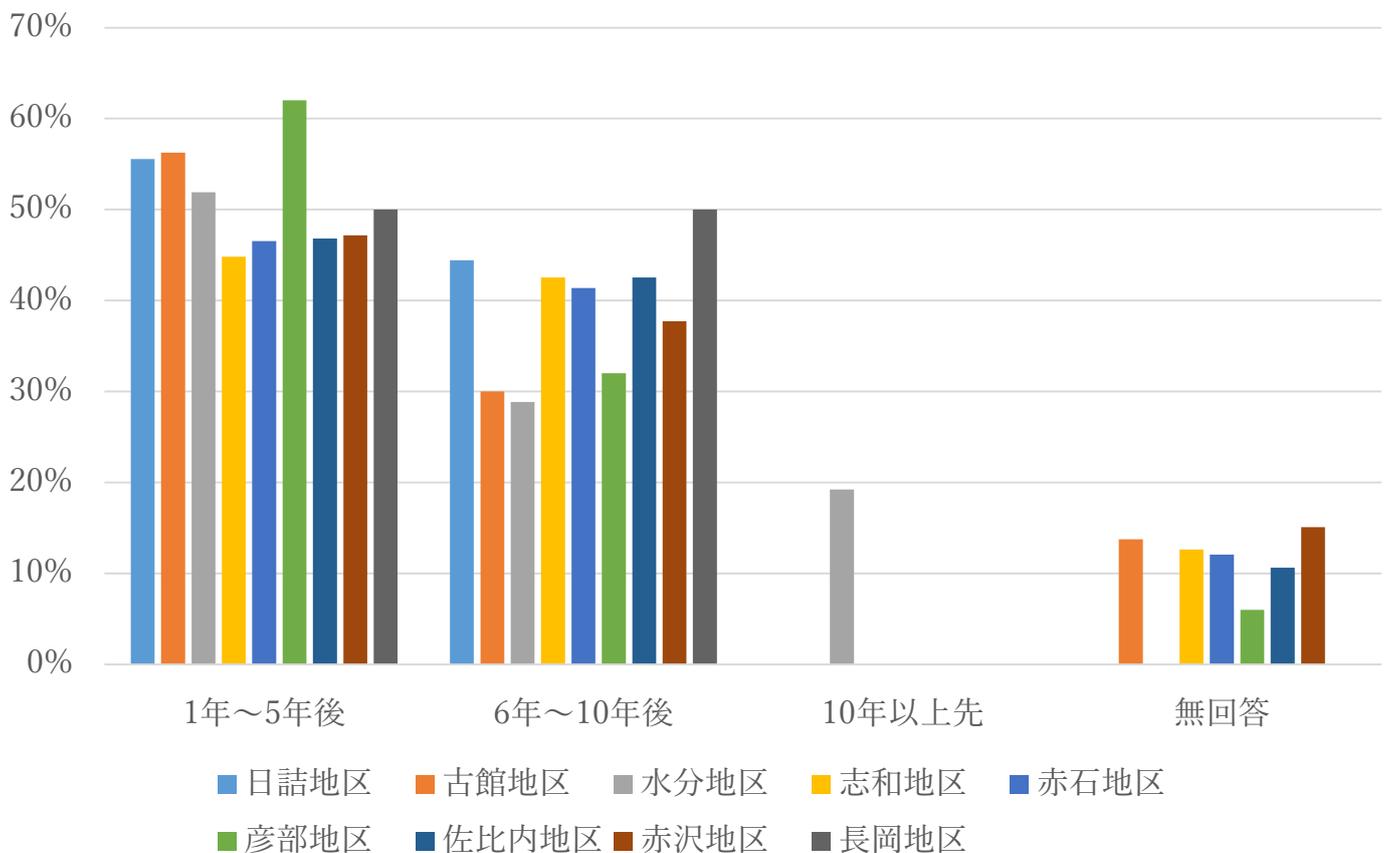


図3-9 経営規模を縮小する時期別経営体数割合（地区別）



(5) 経営規模縮小方法

経営規模縮小方法は、町合計では、農地を売るが36%、農地を貸すが34%、農作業を委託するが25%、第三者継承するが5%となっています。

農地を売る割合が高いのは、日詰地区70%、古館地区43%、佐比内地区43%、赤石地区41%となっています。

農地を貸す割合が高いのは、赤沢地区50%、志和地区40%、水分地区38%で、農作業を委託する割合が高いのは、赤石地区33%、彦部地区31%となっています。

第三者継承すると回答した経営体は、町合計では、27経営体で長岡地区が7経営体で最も多くなっています。

表 3-10 経営規模縮小方法別経営体数 (単位：経営体)

	農地を売る	農地を貸す	農作業を委託する	第三者継承する	計
日詰地区	7	2	1	0	10
古館地区	38	30	18	2	88
水分地区	20	23	14	4	61
志和地区	27	36	23	5	91
赤石地区	28	16	23	2	69
彦部地区	21	19	19	2	61
佐比内地区	22	18	8	3	51
赤沢地区	9	19	8	2	38
長岡地区	19	19	16	7	61
紫波町合計	191	182	130	27	530

表 3-11 経営規模縮小方法別経営体割合

	農地を売る	農地を貸す	農作業を委託する	第三者継承する	計
日詰地区	70%	20%	10%	0%	100%
古館地区	43%	34%	20%	2%	100%
水分地区	33%	38%	23%	7%	100%
志和地区	30%	40%	25%	5%	100%
赤石地区	41%	23%	33%	3%	100%
彦部地区	34%	31%	31%	3%	100%
佐比内地区	43%	35%	16%	6%	100%
赤沢地区	24%	50%	21%	5%	100%
長岡地区	31%	31%	26%	11%	100%
紫波町合計	36%	34%	25%	5%	100%

図3-10 経営規模縮小方法別経営体数割合（紫波町合計）

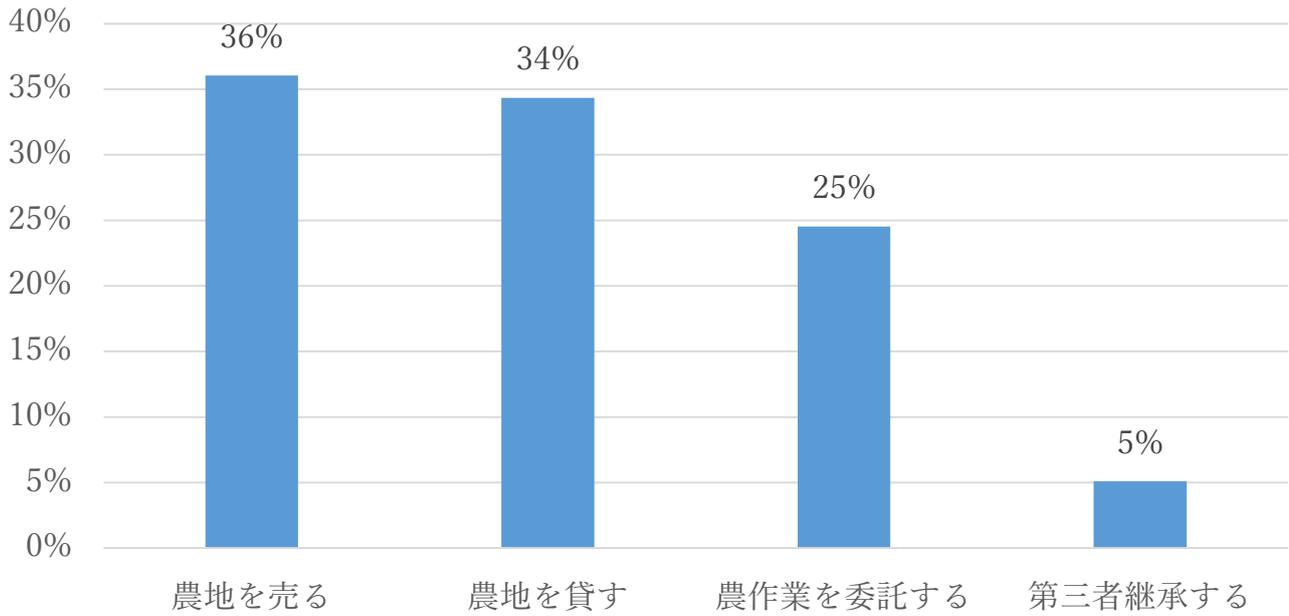
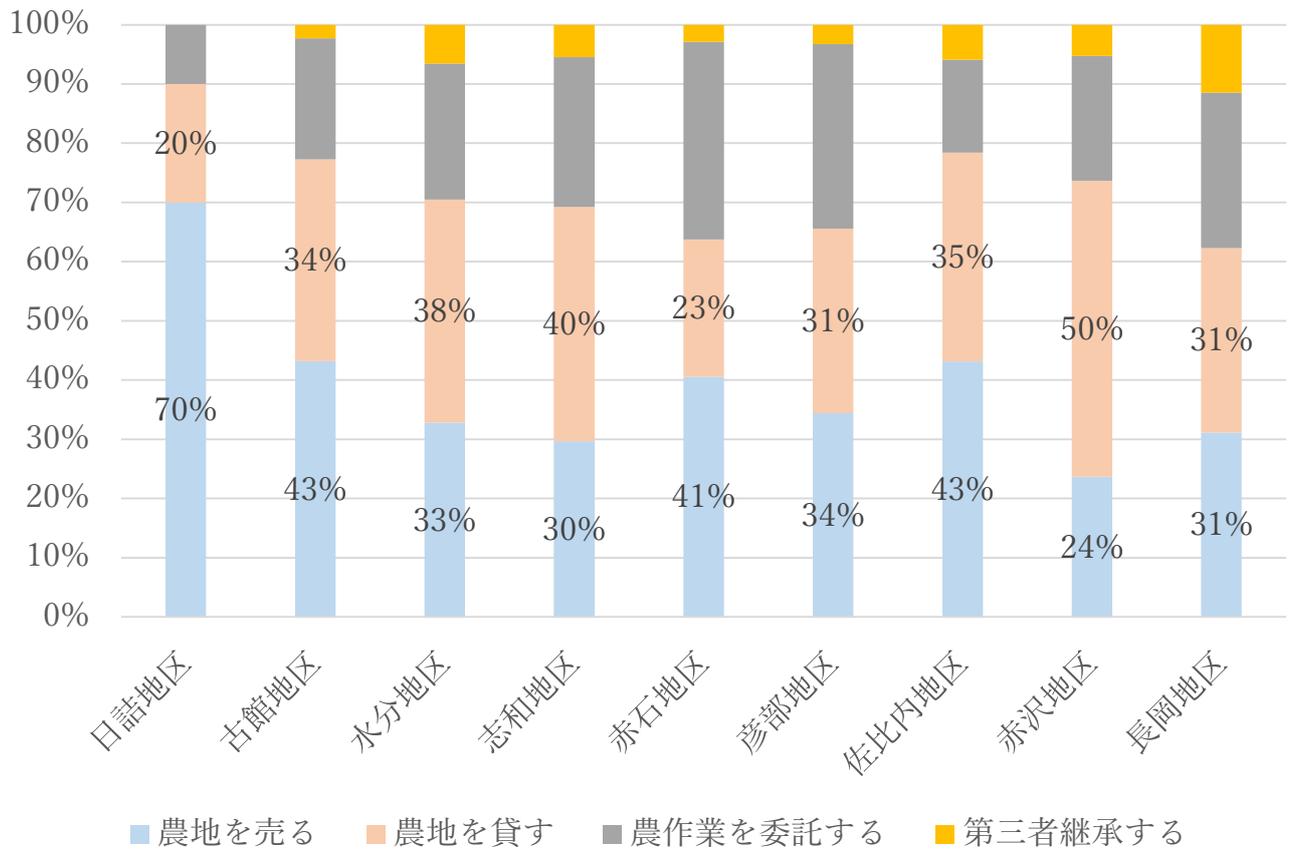


図3-11 経営規模縮小方法別経営体数割合（地区別）



(6) 拡大方法と縮小方法の乖離

拡大方法と縮小方法の経営体数の乖離は、農地の売買では、農地を購入して規模拡大する 26 経営体に対し、農地を売って経営縮小する経営体が 191 経営体あり、売りたい経営体数が 165 経営体多くなっています。農地を買いたい経営体数に対する売りたい経営体数の比率は 735%となっています。

農地の貸借では、農地を借りて規模拡大する 47 経営体に対し、農地を貸して規模縮小する経営体が 182 経営体あり、貸したい経営体数が 135 経営体多くなっています。借りたい経営体に対する貸したい経営体数の比率は、387%となっています。

農作業受託して規模拡大をしたい 21 経営体に対し、農作業を委託したい経営体は、130 経営体で農作業を委託したい経営体が 109 経営体多くなっています。農作業を受託する経営体数に対する委託したい経営体数の比率は、619%となっています。

b 表 3-12 拡大方法と縮小方法の経営体数差 (単位：経営体、%)

	①拡大方法	②縮小方法	③経営体数格差 (②-①)	拡大・縮小経営体数比率 (②÷①)
農地売買	26	191	165	735%
農地貸借	47	182	135	387%
作業受委託	21	130	109	619%
第三者継承	0	27	27	
無回答	2			
	96	530		

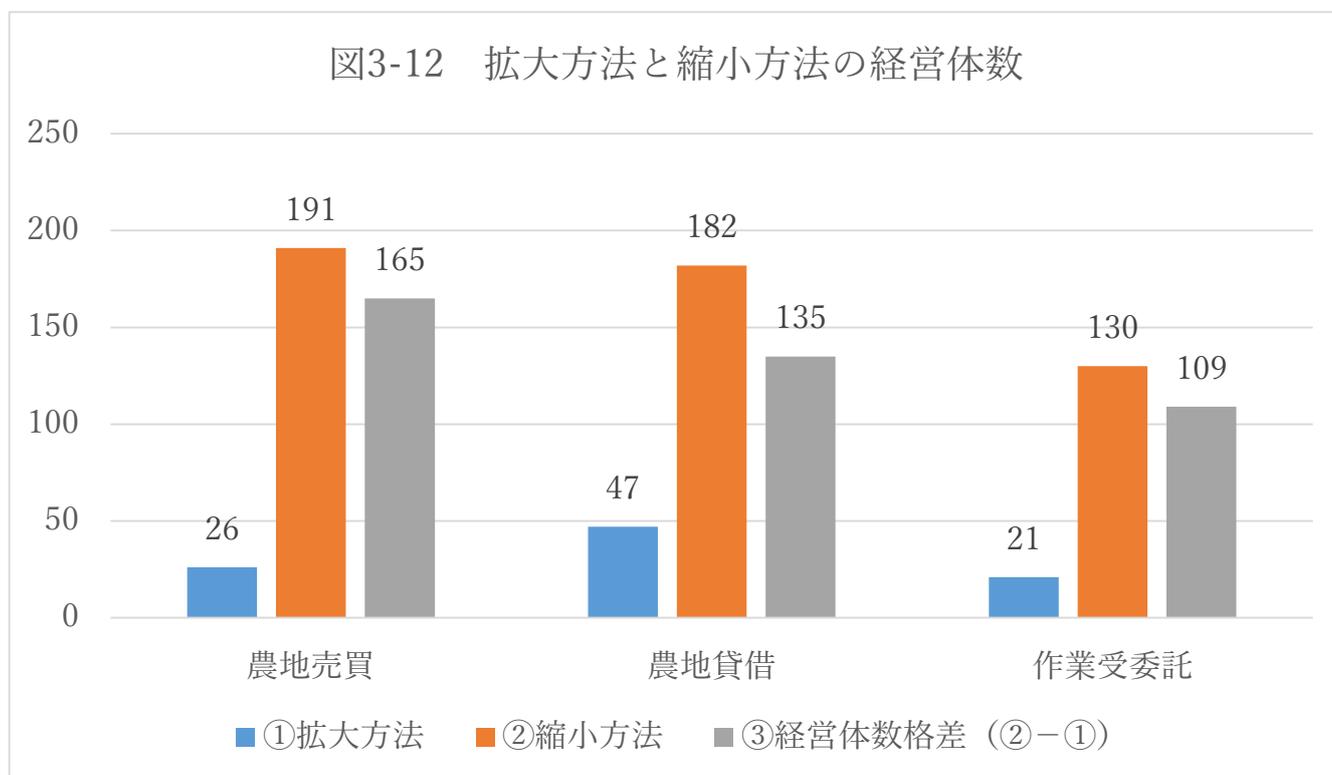
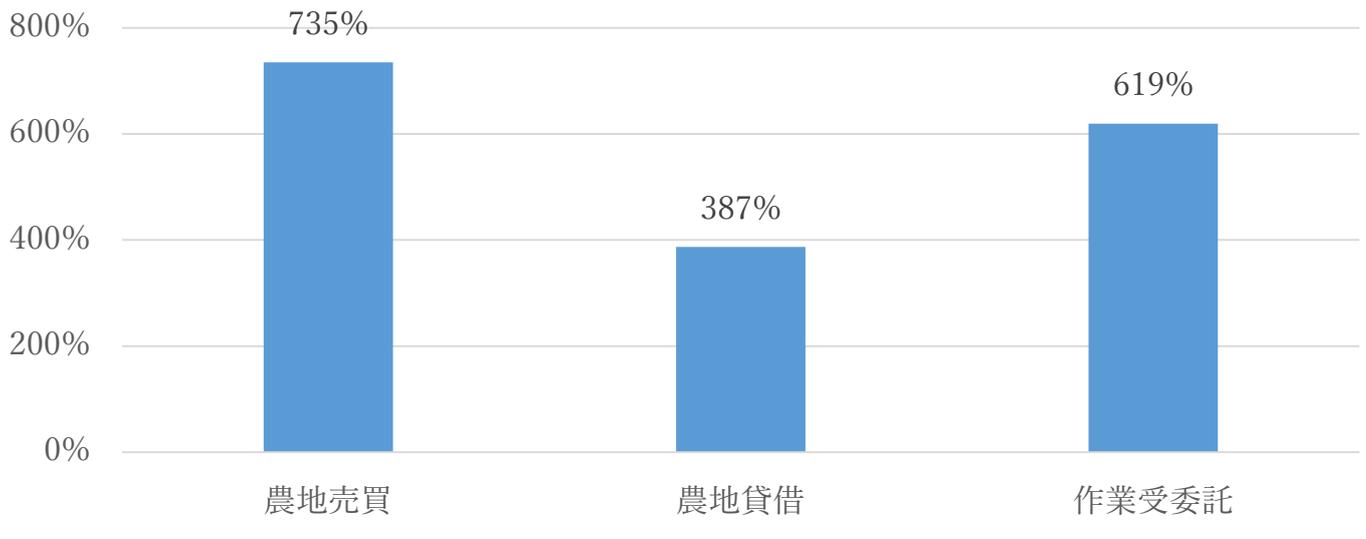


図3-13 方法別縮小・拡大経営体比率
(縮小経営体数÷拡大経営体数)



(7) 拡大時期と縮小時期の乖離

拡大時期と縮小時期の乖離は、1年～5年後に規模拡大する49経営体数に対し、規模縮小する経営体数は246経営体で規模縮小する経営体数が197経営体多くなっています。拡大する経営体数に対する縮小経営体数の比率は502%となっています。

6年後～10年後では、拡大する14経営体に対し、縮小する経営体が185経営体で縮小する経営体数が171経営体上回っています。拡大する経営体数に対する縮小する経営体数の比率は1321%となっています。

表 3-13 拡大時期と縮小時期の経営体数差 (単位：経営体、%)

	①拡大時期	②縮小時期	③経営体数差 (②-①)	拡大・縮小経営体数比率 (②÷①)
1年～5年後	49	246	197	502%
6年～10年後	14	185	171	1321%
10年以上先	0	10	10	0%
無回答	4	45	41	
	67	486		

図3-14 拡大・縮小する時期の経営体数差

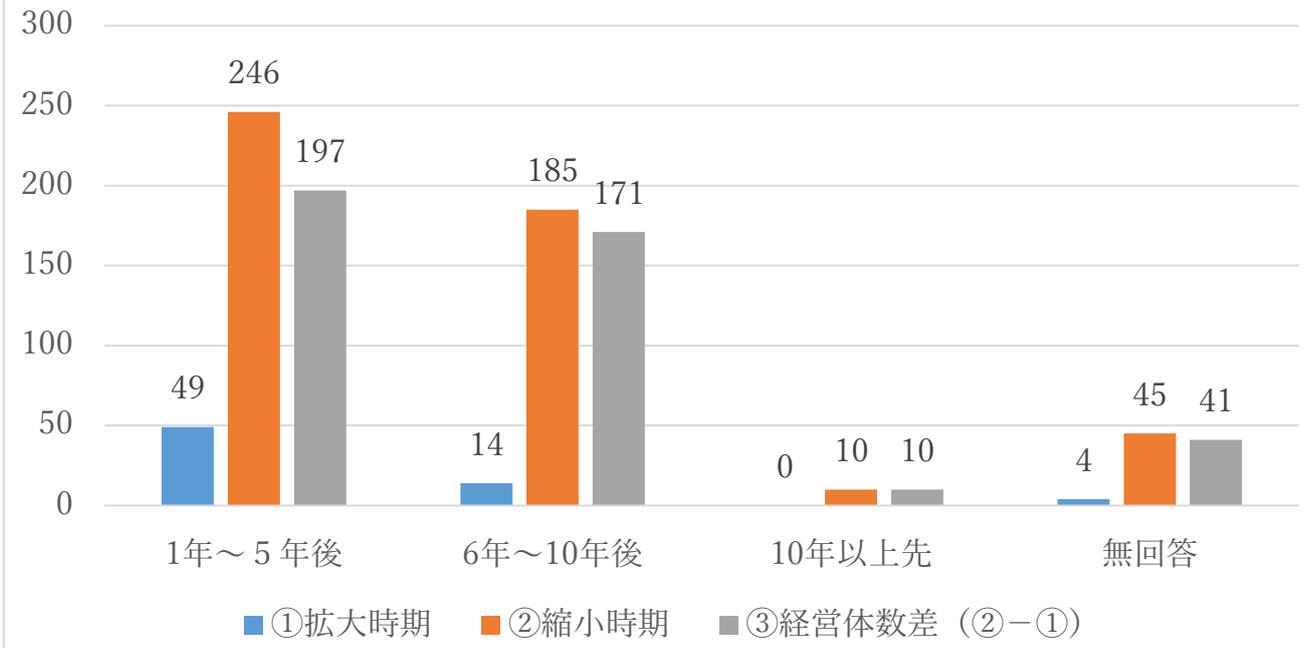
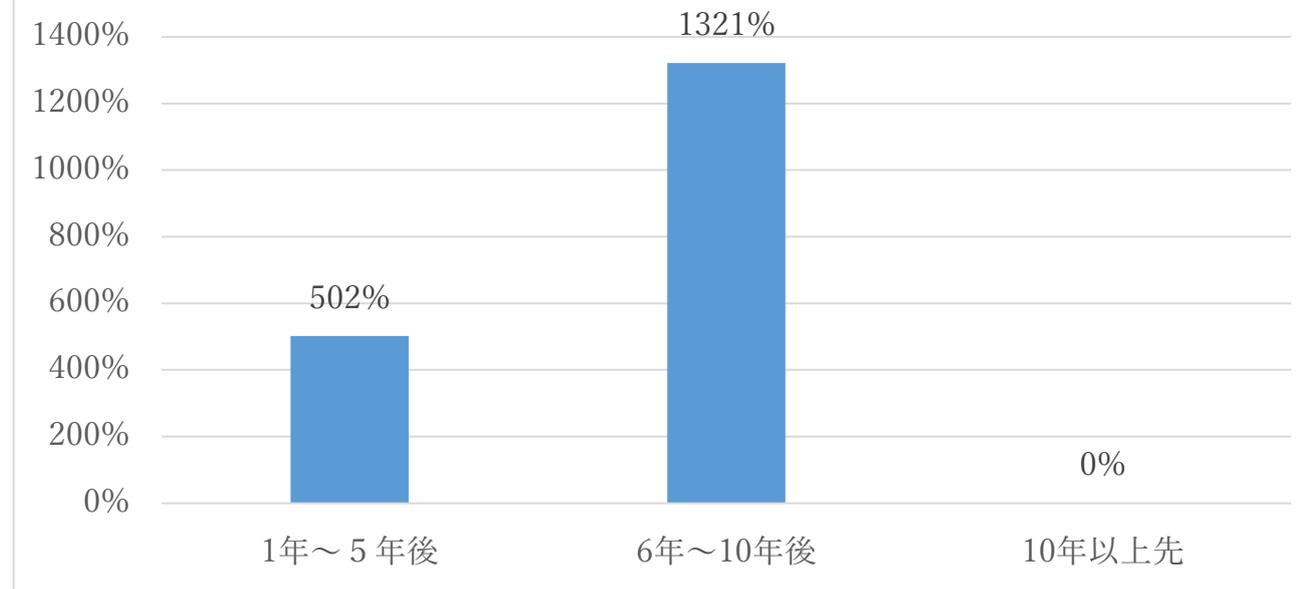


図3-15 時期別拡大・縮小経営体比率

(縮小経営体数 ÷ 拡大経営体数)



4 農地の意向

(1) 農地バンクの活用について

農地バンクの活用については、町合計では、活用したいが65%、活用したくないが16%となっています。

地区別では、農地バンクを活用したい割合が高いのは、水分地区72%、赤石地区67%、彦部地区66%、長岡地区66%となっています。

活用したくない割合が高いのは、日詰地区32%、佐比内地区23%、赤沢地区23%となっています。

表 4-1 農地バンクの活用希望別経営体数 (単位：経営体)

	活用したい	活用したくない	無回答	計
日詰地区	18	10	3	31
古館地区	140	34	48	222
水分地区	116	21	24	161
志和地区	214	38	88	340
赤石地区	141	38	30	209
彦部地区	143	34	40	217
佐比内地区	78	27	15	120
赤沢地区	88	35	28	151
長岡地区	119	30	31	180
紫波町合計	1,057	267	307	1,631

表 4-2 農地バンクの活用希望別経営体数割合

	活用したい	活用したくない	無回答	計
日詰地区	58%	32%	10%	100%
古館地区	63%	15%	22%	100%
水分地区	72%	13%	15%	100%
志和地区	63%	11%	26%	100%
赤石地区	67%	18%	14%	100%
彦部地区	66%	16%	18%	100%
佐比内地区	65%	23%	13%	100%
赤沢地区	58%	23%	19%	100%
長岡地区	66%	17%	17%	100%
紫波町合計	65%	16%	19%	100%

図4-1 農地バンクの活用希望別経営体数割合（紫波町合計）

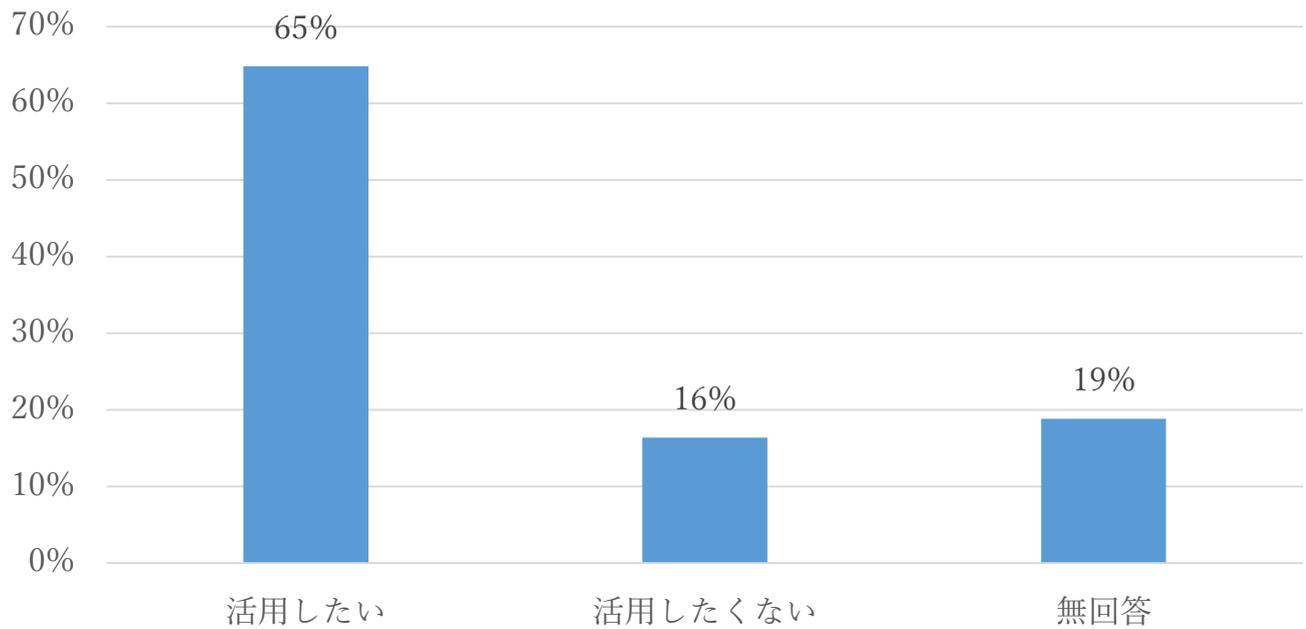
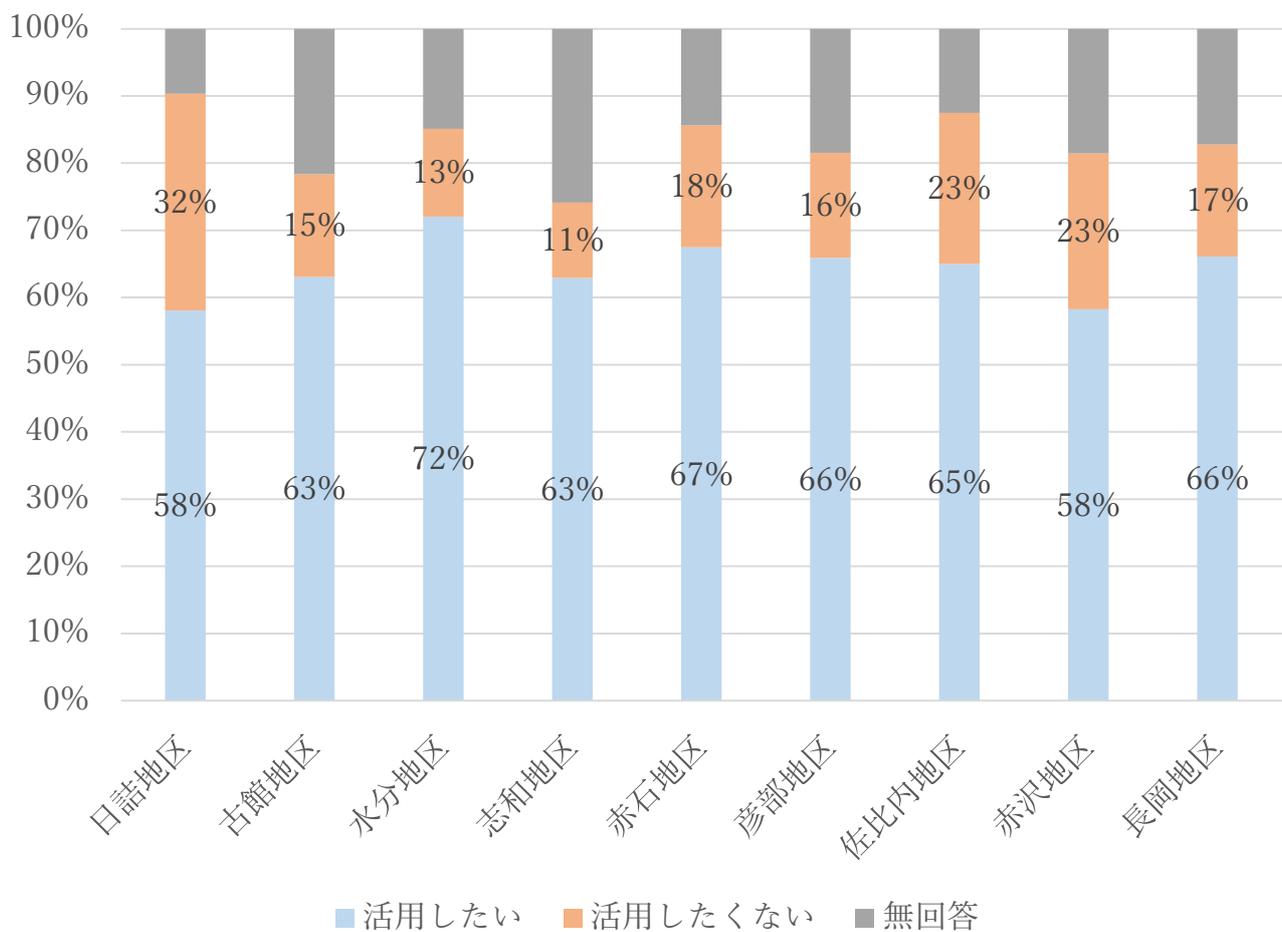


図4-2 農地バンクの活用希望別経営体数割合（地区別）



(2) 農地の交換について

農地の交換については、町合計では、農地を交換してもいいが 39%、農地の交換はしないが 36%となっています。

地区別では、農地を交換してもいい割合が高いのは、日詰地区 48%、長岡地区 47%、赤沢地区 43%、水分地区 42%となっています。

農地の交換はしない割合が高いのは、古館地区 40%、佐比内地区 43%、赤石地区 40%となっています。

表 4-3 農地交換の意向別経営体数 (単位：経営体)

	農地を交換してもいい	農地の交換はしない	無回答	計
日詰地区	15	9	7	31
古館地区	64	89	69	222
水分地区	67	56	38	161
志和地区	135	96	109	340
赤石地区	77	83	49	209
彦部地区	80	82	55	217
佐比内地区	44	52	24	120
赤沢地区	65	59	27	151
長岡地区	85	58	37	180
紫波町計	632	584	415	1,631

表 4-4 農地交換の意向別経営体数割合

	農地を交換してもいい	農地の交換はしない	無回答	計
日詰地区	48%	29%	23%	100%
古館地区	29%	40%	31%	100%
水分地区	42%	35%	24%	100%
志和地区	40%	28%	32%	100%
赤石地区	37%	40%	23%	100%
彦部地区	37%	38%	25%	100%
佐比内地区	37%	43%	20%	100%
赤沢地区	43%	39%	18%	100%
長岡地区	47%	32%	21%	100%
紫波町計	39%	36%	25%	100%

図4-3 農地交換の意向別経営体数割合（紫波町合計）

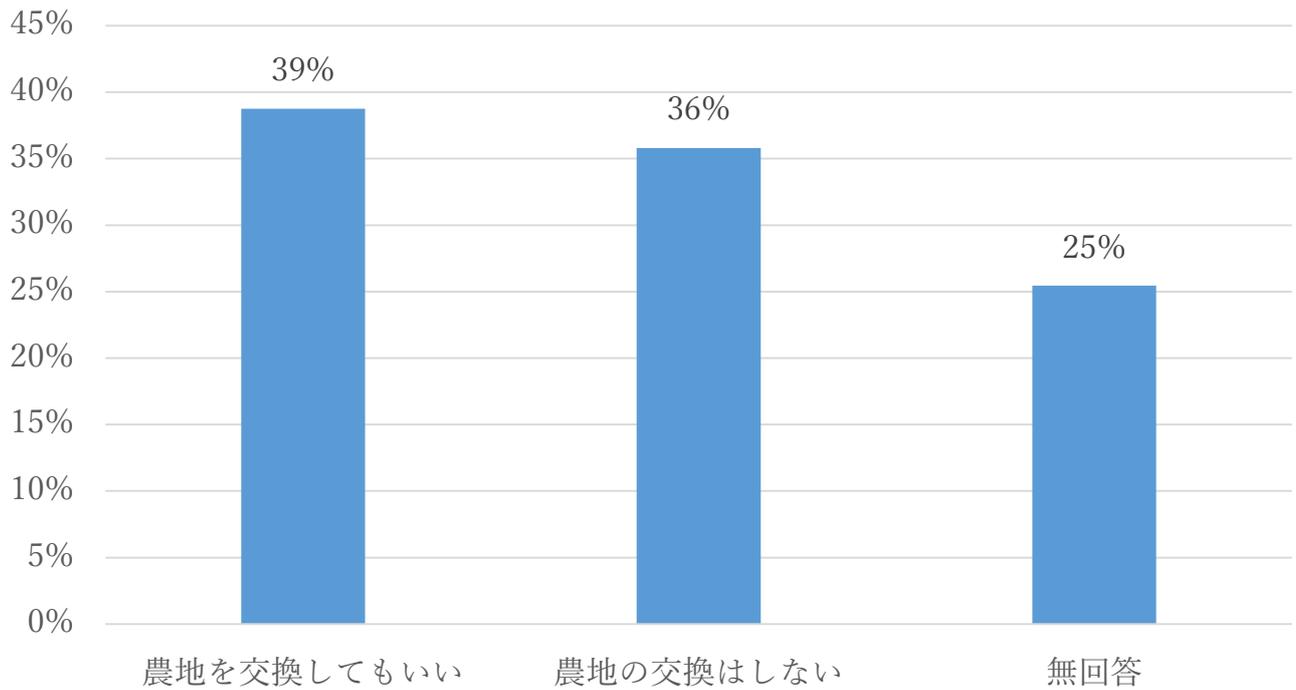
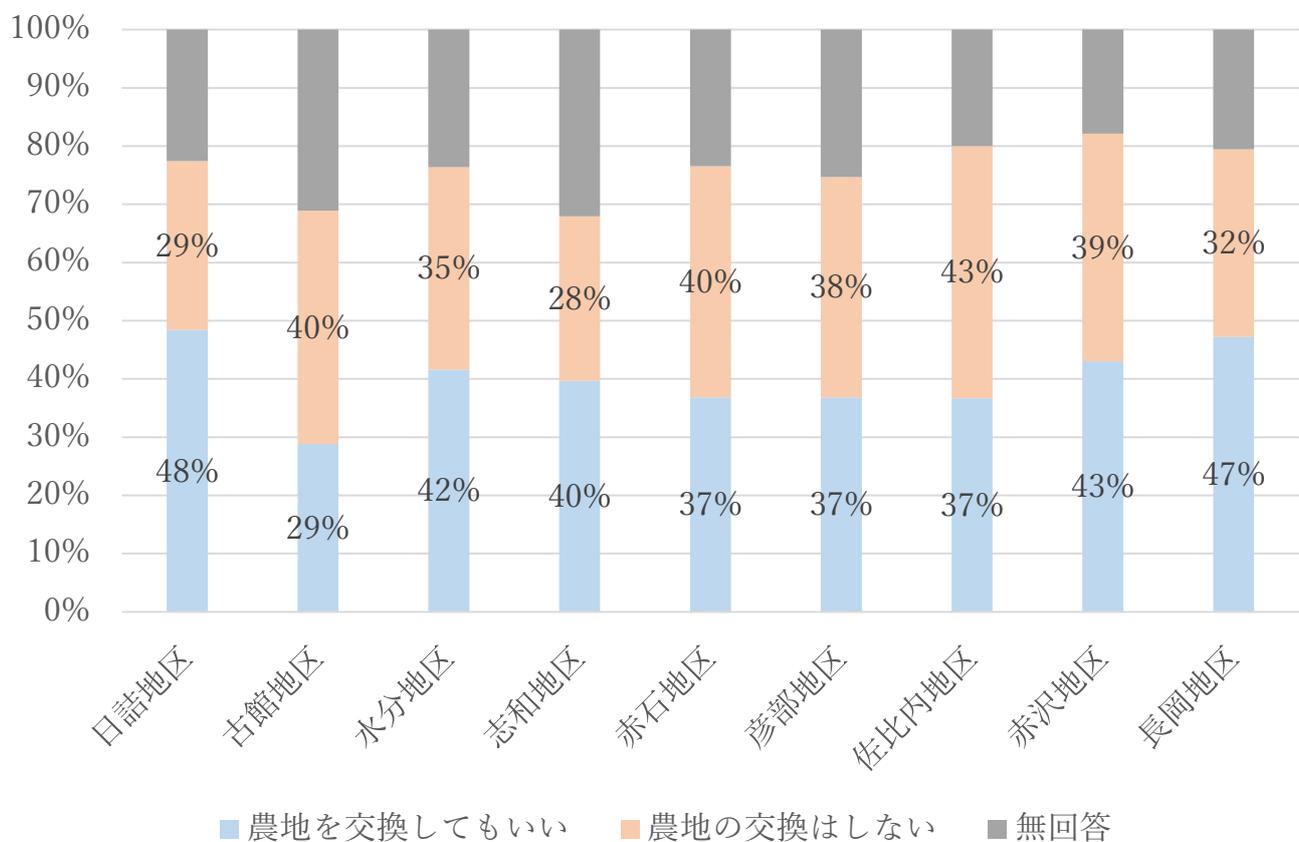


図4-4 農地交換の意向別経営体数割合（地区別）



5 農作業委託の状況と今後の意向

農作業の委託では、町合計では、農作業を委託していないが 26%、農作業を委託しているが 45%、今後、農作業を委託したいが 6%となっています。

地区別では、農作業を委託していない割合が高いのは、佐比内地区 38%、赤沢地区 38%となっています。農作業を委託している割合が高いのは、赤石地区 54%、長岡地区 51%、水分地区 50%となっています。農作業を委託している割合が高い地区では、地区の核となる大規模法人が多くの委託者から作業を受託しています。(農作業受委託者一覧から)

表 5-1 農作業委託状況別経営体数 (単位：経営体)

	農作業を委託していない	農作業を委託している	今後、農作業を委託したい	無回答	計
日詰地区	10	14	2	5	31
古館地区	61	97	11	53	222
水分地区	41	80	12	28	161
志和地区	68	152	22	98	340
赤石地区	58	113	11	27	209
彦部地区	36	90	5	86	217
佐比内地区	46	44	9	21	120
赤沢地区	57	61	9	24	151
長岡地区	55	91	11	23	180
紫波町合計	432	742	92	365	1,631

表 5-2 農作業委託状況別経営体数割合

	農作業を委託していない	農作業を委託している	今後、農作業を委託したい	無回答	計
日詰地区	32%	45%	6%	16%	100%
古館地区	27%	44%	5%	24%	100%
水分地区	25%	50%	7%	17%	100%
志和地区	20%	45%	6%	29%	100%
赤石地区	28%	54%	5%	13%	100%
彦部地区	17%	41%	2%	40%	100%
佐比内地区	38%	37%	8%	18%	100%
赤沢地区	38%	40%	6%	16%	100%
長岡地区	31%	51%	6%	13%	100%
紫波町合計	26%	45%	6%	22%	100%

図5-1 農作業委託状況別経営体数割合（紫波町合計）

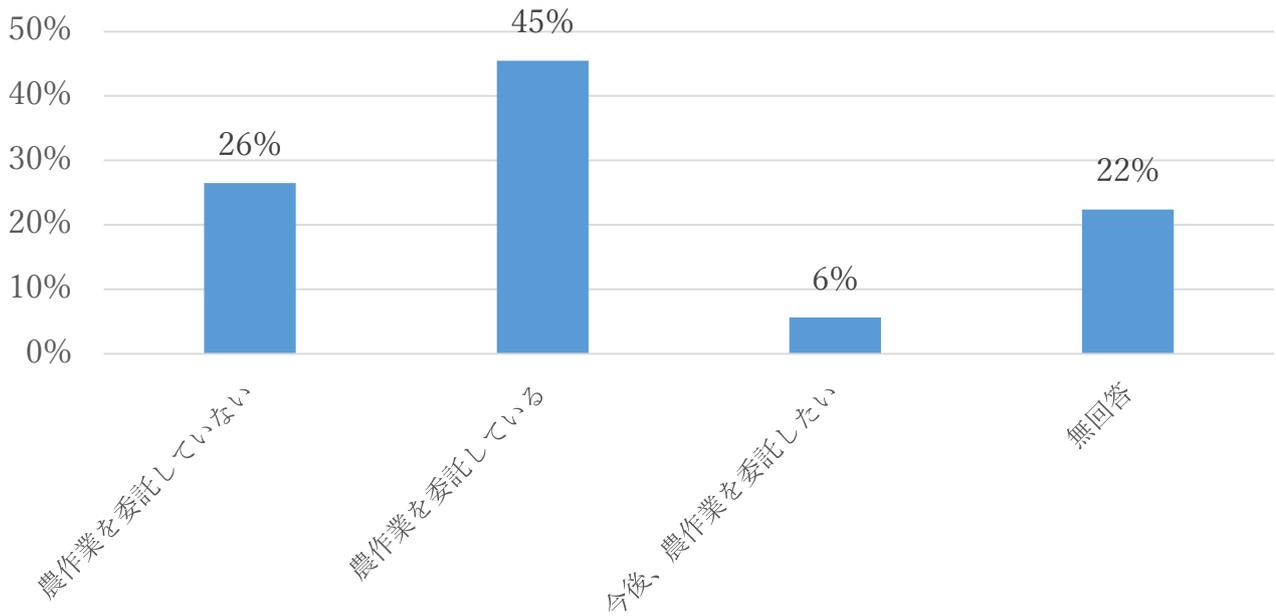
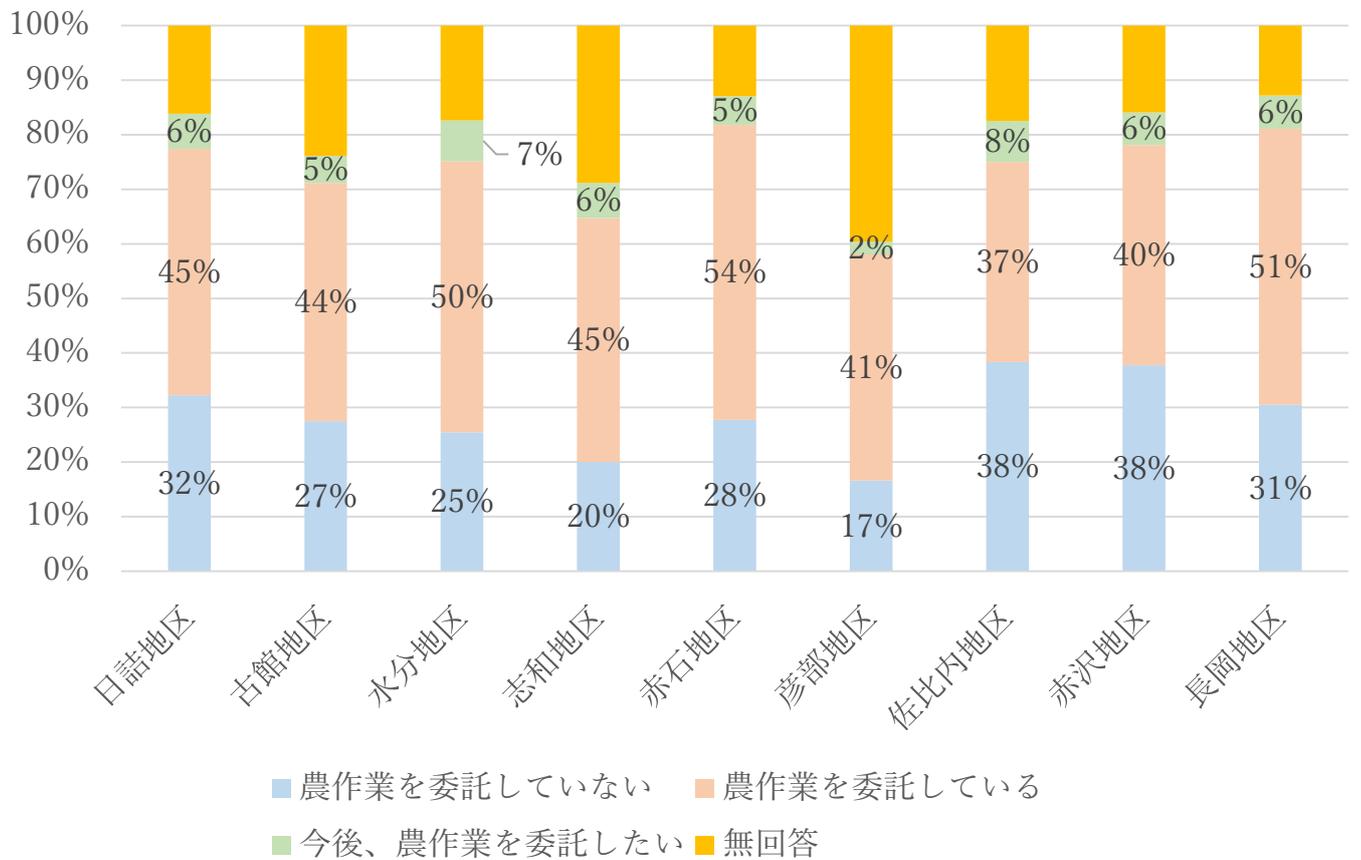


図5-2 農作業委託状況別経営体数割合（地区別）



< 資 料 >

1 農地バンクを活用したくない理由（自由記載、原文のまま）

1	貸し借り、売買の予定はないため
2	現状維持
3	今後営農を止める
4	自分で探したいため
5	体が動かない為
6	農地として立地条件が悪く、活用に期待できない
7	今の所特に考えていない
8	今は知らない人と貸借したくない
9	売りたい
10	活用したいが、自宅前の農地なので出入りに不便を感じるのではないか？
11	現在、農地を貸しているので（矢巾）農地バンクは不要
12	住宅地のため農地維持は無理
13	所有している耕作面積が小さい
14	すごく理想すぎて現実味がない。誰でもいいから作ってほしいという人はほぼいないと思う。この人には貸したくない、この人ならこの条件でもいいけど、この人ならこの条件変えたい等、状況は私情を挟むと複雑だと思う。その間にさらに入られても、ただややこしくなる様にしか思えない。
15	先祖の土地を出来るだけ守りたく、高齢であるため
16	特になし
17	トラブルがないといいが…
18	農業をやめる
19	農地を売る
20	売却予定
21	病気のため
22	よくわからないから
23	中山間地域の農地のため水稻等の作付が困難である。又、採算性も見込めない。
24	現状維持
25	今のところ考えていない
26	既に貸しているため
27	地域で法人を組織し活動している
28	今までどおりでよい
29	地権者と話合できている

30	現在、隣人に小作契約しているため
31	現在、貸しているが売却をしたい。バンクは貸借を推進するイメージ。
32	めんどくさい為
33	特に必要としていない為
34	現在の農業委員会は、書類を受け付けるだけで、親身に相談してくれないと言う評価が多いので、地区の人と相談している方が多いので
35	R7年度から小作契約の予定
36	顔の見える知っている人をお願いしたい・種子圃場なので、できれば種子部会員に
37	活用する必要がない.後継者はいる
38	現在、貸し借り、売買等は考えていない。
39	現状維持
40	現状では貸し手が借り手を見つけなければならないから
41	個人情報
42	作業の委託先が決まっているから
43	自宅周囲に他人が作業することにより、日常環境が耕作に左右されるため。(草刈りの方法、作業日誌等、道路使用含め)
44	集落営農組織がある
45	集落内の営農組織を維持し、作業する人を残す事が必要
46	信頼のおける知人なら活用してもいい
47	制度を理解していない
48	手数料を取るのか？
49	農地面積が小さいので
50	平成元年に区画整理した農地は活用できると思うが、当部落の県道13号より西の農地は昭和33年に区画整理したままなので活用は出来ないと思う
51	圃場が小さい
52	良く理解していない為、状況により有効であれば検討します
53	良く理解できていないため
54	あまり機能してない
55	今貸しているところで良い
56	今の状況 田は組田.畑は家の周りだけなので今の所無理
57	貸し借り.売買の予定がないから
58	活用できる農地がない
59	(株)アグリ紫波優先
60	仮契約済みの為
61	北日詰営農組合に委託
62	現在知人に委託している
63	現時点で必要ない

64	現状のままでよい
65	後継者が当分農業を行うため
66	集落営農組織に委託中
67	将来的に所有農地全てを売却したいと考えている
68	既に委託を行っている
69	すでに賃貸借済
70	すでに当地区の農業法人に委託している為
71	組織の営農が多忙
72	農事組合法人加入済
73	農地として使うつもりがないので
74	反対はしない。まだよく分からないので答えられない。
75	必要ない
76	まだ考えていない
77	耕作面積が小さい、空地として利用するため
78	15年～20年後の相続人と相談・尊重
79	家のまわりのため、小面積
80	営農組合に願ひする
81	大巻農産に委託（加入）
82	愚策です！ ①全くメリットがないと思われ ②結果的に農業者の減となり、日本の農業の弱体化が加速する
83	くわしい仕組みがわからない
84	現在農事組合法人に農地を貸しているため
85	現状維持
86	現状維持で行っていきたいと考えているため
87	現状で良い
88	現状を見ると借りたい人はほとんど無く農地以外の転用が望まれると思う（宅地に転用）
89	借金返済のため
90	既に委託済
91	手数料があるから
92	農地だと安いから農地としてではなく自由に売買したい。現在農業規模を減らして5年以内に終活する予定
93	売買も貸すことも考えていない
94	星山営農生産組合
95	圃場が小さいから
96	本家に委託
97	近隣に借手が居る

98	現状維持のため
99	現状維持のまま続けようと思っている
100	現状悪く借手が無いと思うから
101	自給的作物づくりを継続出来れば良いと考えている
102	自宅周辺が農地のため、不特定多数の方が、出入りするのには防犯、プライバシー等心配される。
103	誰もいないでしょう
104	農地を活用する人はいないと思うから
105	場所が悪い
106	未定
107	めんどろです。鳥獣被害が多くて、電柵もしていない。
108	休みには、父母と3人で委託したら現状を変えられてしまったため
109	わからない
110	わからない
111	今のところ考えていない
112	夫が死亡後働けなくなり、農協の人が入り下の方の田を耕作してもらってます。
113	害獣が多すぎる
114	貸し借り意思なし
115	貸し借り又は売買の予定なし
116	貸す予定もない、売買する予定もない者に「活用したくない」の理由を求めるのはなぜか、そもそもその回答に2者択一をせまる調整方法に異議あり
117	考えたことがない
118	現在委託しているのでこのまま続けたい
119	後継者いない
120	自己保全
121	事情により現状維持と致します。(当面、自己保全管理)
122	手続きが煩わしい
123	手続きが煩雑
124	農業委員会を通して手続きしたい
125	農地の貸し借りや売買はしたくない
126	農地を手放したい
127	場所が山の中なのでムリだと思う
128	別に世話になる位ではない
129	水が不便です。昔から熊の通り道です。今は鹿がたくさんいます。利益にはならないと思うし危ない。
130	メリットが出るような場所がない

131	基盤整備と同時に集積を行い、農事組合法人を立上げ、組合員でもあり、自己完結、作業委託する作業もある。圃場によっては、組田もあるので、貸借は組合の中で行うべきで、組合員以外との、貸借・売買は組合の存続にかかる。
132	組合に委託
133	組合に加入しているから
134	高齢の為
135	作業を委託している
136	自分が使っていない（使いたくない）農地を買ってくれるなら利用したいですが…
137	自分で働けるうちは自分で行いたい
138	条件が悪すぎて難しいと思うので
139	すでに賃貸借契約をしているため
140	田は西長岡高度農業生産組合に全面委託.畑は耕作放棄
141	地域の生産組合に委託したい
142	地区内で作業委託をしているので、将来もお世話になっていきたい
143	地区内又は組合内で処理
144	内容が良くわからない
145	年齢により受託できない
146	農作業以外の活用希望
147	農地が集約化しているから
148	農地が少ない
149	人の仲介を望まない為
150	別にはないですが、自分でやります。(今のところ！)

2 農地交換をしたくない理由（自由記載、原文のまま）

1	畑について、現状は畑の周りは住宅に囲まれて農作業の騒音等による住民とのトラブルが発生している。又、排水溝が無整備のため大雨による畑全体の水没が問題である。
2	売却希望
3	特に理由はない
4	現在の圃場に主要な設備があるため
5	営農していないので、営農の為の交換のメリットがない
6	水田を連続してもらっているため
7	現状維持
8	現在、特に不都合と感じてないため
9	家から近いので交換する必要がない
10	家の近くに有り便利だと思うから（現在）
11	今のままで
12	果樹栽培であり既に生育しているため
13	客土をしたり様々農地に手を加えて働きやすくしたから
14	共同作業している人々との農地が近いから
15	現在所有の農地は、全て自宅近隣で立地良好で、作業効率も良い為
16	現在の場所で良いと思う為
17	現在の立地条件が良い
18	現状の農地立地で問題なし
19	後継者がいないため無理
20	困っていない
21	左記と同じ
22	自宅入口前の農地の為、働く方も不便を感じるのでは？
23	自宅に近い
24	自分で活用する
25	条件にもよりますができないと思う
26	先祖からの土地の為
27	できれば手放したい
28	手続きの時間がない
29	農業に後継者がいないこと
30	農業をやめる
31	農作業下記に委託の為、農業機械トラクター以外処分した
32	農作業を委託している為
33	畑の場合は農地交換 OK
34	良くわからない

35	余計面積が増えそう
36	10年後農業が出来るかわからない
37	家のそばにあるから
38	家の前にあるから
39	家の周りがあるため
40	今のところ考えていない
41	今のままで良い
42	管理が可能な限りは働いていきたい
43	現在、自宅周辺に圃場を所有しているため
44	現在、農地が隣接しているため
45	現在の場所が良い
46	現在の場所に働きにくさがないため
47	現状維持
48	現状で充分
49	現状でよい
50	交換しても作業できない
51	作業に支障がある場所
52	自作地がある・組田が多く面倒
53	自宅から近いから
54	自宅に隣接しているため
55	自宅の周囲だけの農地である
56	所有が不明確になる為
57	所有権移転の費用を誰が出すのか
58	所有しているのであれば、住宅の周囲の方が良い
59	手続きが面倒
60	特に必要としていない為
61	農業をやめることを考えている
62	農地として維持が困難なため
63	農地の近くに実家があるため
64	農地は住家に隣接しているので現状が良い
65	売却したいので交換の選択はない
66	排水が悪い・圃場が小さい
67	プライバシー等
68	満足しているから
69	水分農産に委託したので
70	ローンの担保に入っている
71	R7年度から小作契約の予定

72	ある程度集約されてる
73	今、考えがまとまらない（わからない）（場所が（土地）良い所にあるため）
74	今の土地が良いから
75	各水田ごとに地力が違う為
76	現在、委託している人の了解が必要である
77	現在地で充分
78	現在の農地が良いから
79	現在の場所が活用しやすいため
80	現在比較的作業及び管理が出来ているから
81	現状維持を考えているため
82	現状に大きな不満がない
83	現状は自宅の隣のため
84	交換しても、今より土地条件が良くなるとは思えない
85	耕作地は集約されている
86	耕作農地の土質の問題
87	子は農業をしないと思う
88	作業農地が近いから
89	自己資金で改良したから
90	自宅周囲にほぼまとまっている
91	自宅すぐ側に農地がある為（現状）
92	自宅近くでまとまっていて作業効率がいいため
93	自宅近くの農地だから
94	自宅に近いから
95	自宅の近くにあるから
96	住居に近いから
97	十分集積されている為
98	上記の理由と同じ
99	条件が不明なため
100	信頼のおける知人なら農地の交換も考える
101	既に一部の農地で行っている。
102	全部家の回りがあるので
103	宅地と地続きの為
104	土地条件が良いので
105	土地条件が良いから
106	土地条件がらみで
107	農地があっても働く人がいない
108	農地が自宅周辺にあるから

109	農地管理の考えに個人差がある為
110	農地交換の仕組み、土地所有権の交換？条件がよく分からない為
111	不便な土地はない
112	便利な所にあるので
113	圃場が小さい
114	圃場が近い
115	圃場の条件は良い
116	良い条件の田なので
117	良く考えていない為、どちらとも言えない
118	立地条件が良いため
119	ある程度まとまっている
120	家から遠くない
121	家に近い
122	家のまわりに田がある。便利だから遠くへは交換したくない
123	家の周りに土地があり近いから
124	今の状況 田は組田.畑は家の周りだけなので今の所無理
125	売りたい
126	仮契約済みの為
127	区画整備をしている
128	現況特に交換する問題点はない
129	現在の農地と同じような土地条件の農地
130	現在のままで良い
131	現在まとまっている
132	現状維持（現在の規模で良い）
133	現状維持でよい
134	現状維持を望むので
135	現状でまとまっている
136	現状で問題ない為
137	現状で良いと思うから
138	現状に満足している
139	後継者と相談していない
140	作業を行う為に、移動時間が少ないから（作業の管理が容易である）
141	自宅から近い土地を持ちたいから
142	自宅から半径 500m以内に全ての農地がある
143	自宅近辺所有のため
144	自分の家のそばにある
145	自分の土地を大切に思っているから

146	所有農地全てを売却したいと考えている
147	水田は1枚1枚条件に違いがあるため
148	既にまとまっているため
149	全ての組織で行う
150	整備が出来ている
151	先祖が守った土地だから
152	先祖からの田を守りたい
153	知人に相談する
154	特に不便を感じていない
155	土地に愛着がある
156	土地の条件が良いため
157	農業をするつもりがない
158	畑と牧草地だから
159	反対はしない。1枚1枚クセがあるので自分はしない。
160	必要としないから
161	必要ない
162	必要ないから
163	まとまってあります
164	まとまっている土地は交換しない
165	昔からある土地に愛着がある為、手放すのはいやだ。
166	面倒
167	家の周りに農地がある
168	今の状況でよい
169	今の所が最適と思われま
170	今は・・・という意味
171	現在の土地に愛着がある（ロケーションが良い）
172	現実的によくわからない
173	現状維持
174	現状で良い
175	交換してもしなくても農業を又は土地を所有することにかわりない
176	交換の意味が分かりにくい。今の土地を手放し、他の土地を取得するという認識であっているか？
177	後継者いない
178	事業により面積をまとめているから
179	自宅から近く交換の必要がない
180	自宅に近い（周辺である）
181	自宅に近いので特に不便を感じていない
182	実質空地として必要

183	周辺農地は管理が悪くぬかる田んぼになっているため
184	条件がよくわからないため
185	所有農地は全て自宅の周りにまとまって隣接していて、今後も自分で維持していきたい
186	整備したので
187	相当の面積を集積しているから
188	長年手掛けてきた農地が一番働きやすいから
189	農地が自宅近くなので
190	農地が近い
191	農地が近場で作業がしやすい
192	農地はまとまっている
193	圃場の条件が良いから
194	本家に委託したい
195	まとまっている
196	まとめた農地が遠くなるのは困る
197	昔からのため
198	屋敷内だから
199	家の周りの小さい土地なので
200	営農をやめたい
201	管理ができないため
202	現在の土地が良い
203	現在の農地は自宅に近い場所のため自宅から遠い所は望まない
204	現状の維持.管理
205	現状悪く借手が無いと思うから
206	交換場所による
207	自給的作物づくりを継続出来れば良いと考えている
208	自宅の周りに全ての所有田があるので管理し易い
209	自分の家の農地だから
210	住宅周辺の土地のため、今のままで良い
211	条件が良く、今耕作しているところは自宅の周りだから
212	条件の悪い農地だった場合困る
213	誰もいないでしょう
214	遠くなる可能性がある
215	特になし
216	なれてない
217	農業後継者はいない。今後農業を続けることは不可。
218	農地が家の周りに有り、移動距離が少ないから
219	農地が自宅に隣接している為

220	農地の交換ではなく、農地の所有を継続するか考えたい
221	農地の交換は考えていない
222	農地を活用する人はいないと思うから
223	必要な土地以外は売却したい為
224	必要はない
225	まとまっているから
226	老人のため
227	わからない
228	家に近いから
229	家に近い所に全てあるので、他所とは交換したくない
230	今現在家の近くなので
231	今のところ考えていない
232	今までやってきた畑を他の人にはいられるのはいやだ
233	考えたことがない為、返答できない
234	規模を縮小するため交換の必要はない
235	現在の場所が一番近い所にある為
236	現在のままで良い
237	現状維持の予定
238	交換することによる不利益も想定される
239	後継者が考える
240	自己保全
241	事情により現状維持と致します。(当面、自己保全管理)
242	自宅の近くに農地がある
243	地続きの為
244	就農意思なし
245	所有農地を超える優良農地はない
246	先祖代々の土地だから
247	その時全部辞める
248	通作できる状況である
249	手続きが煩わしい
250	当方の農地が1ヶ所にまとまっている為
251	遠くなるので
252	特になし
253	特に問題ない
254	農業を続けられるか不安
255	農地が家の近くに有るため出入りが気になる
256	農地が自宅から遠くなると大変なので

257	農地が自宅周辺にあるので
258	農地が自宅近くにあるため
259	農地を交換するメリットが感じられない。しかも農地バンクに出したとしても期間が2年である。
260	農地の地理的場所や環境があまり良くないので、相手に申し訳ない
261	別に今のままでも問題はないと思っている
262	メリットが出るような場所がない
263	りんごを栽培しているから
264	家の前にあるから
265	親から受け継いだ土地（場所）の為
266	組合に加入しているから
267	組田に3人入っているが、2名の方の水田を借りて農業をしたい
268	現在は交換の必要がないので
269	現状のままで問題ないから
270	現状は、自宅の前なので遠くになると、不便になる事が予想される為
271	交換するような土地ではない
272	交換を必要としない
273	この先、何年働けるかわからない
274	今後、将来的にやめる
275	作業を委託している
276	自宅近くに所在するため
277	自宅近くに農地が集約されているため
278	自分の農地が分からなくなる
279	条件が悪い場所だから
280	信用できない・他人に土地に立ち入れられたくない
281	すでに区画整理済
282	すでにまとまっているので
283	田.畑は家のまわりにあるため
284	地区内で処理
285	手放したい意向が強い
286	特になし
287	特に不便が無い
288	土壌の条件が大きく変わってしまうため、できるだけ交換したくない。
289	どちらかと言えば、そういう話が出たら、話し合いの上で
290	慣れた農地で続けたい
291	農地内に家があるから
292	働きの条件が良
293	必要と思えない

294	圃場の半分以上が未整備（傾斜地の為）で、地区外扱いで、作業しにくいけれどもどうにもなりません。先代からの土地でもあり、放置できません。
295	面倒だと思う！
296	割と近場である

3 意向調査結果から作成した一覧表

※個人情報につき報告書では、一覧表に記載している項目と件数のみ表示しています。

地域の協議の場合では、個別にデータの提供が可能です。

①経営規模拡大経営者一覧 67件

地区	経営者	拡大時期	拡大農範囲		拡大方法			拡大農地 (a)			
			自宅周 辺	耕作農地 周辺	農地 購入	農地 借入	農作業 受託	拡大 地目	拡大面積 (a)	その他 地目	拡大面積

②農作業受委託者一覧 700件

地区	受託者氏名	委託者氏名	作業名

③農作業委託希望者一覧 93件

地区	経営者氏名	委託希望作業名

④第三者継承希望者一覧 27件

地区	経営者氏名	縮小時期

4 意向調査票

【調査票 A】 農業経営の意向に関する調査票

◆ 調査の趣旨

町では、地域の将来の農地の利用方法を明確化する「地域計画」を、令和7年3月末日までに策定する予定です。

そのために、農地を所有又は耕作している皆様から、現在の営農状況や農地の利用状況と概ね10年後の意向を調査し、「目標地図」を作成いたしますので、本調査へのご理解と、回答・提出のご協力をよろしくお願いいたします。

◆ 個人情報の取り扱いについての同意

意向調査で町が把握した情報を個人情報の保護に関する法律及び各地方公共団体の個人情報保護条例に基づき適正に管理し、地域計画の策定及び実現のために利用すること、本調査の結果を以下の関係機関と共有することを、**調査票の提出をもって同意します。**

<関係機関>

関係市町村、岩手県、農地中間管理機構（（公社）岩手県農業公社）、農業委員会ネットワーク機構 等

◆ 調査票の記入方法

該当する□に「✓」を記入、または回答欄に文章で記入してください。

I 経営主の状況について（全員回答）		提出：令和	年	月	日
経営主氏名	生年月日	大・昭・平	年	月	日
調査用個人コード					
住所					
連絡先電話番号	自宅				
	携帯				
現在の営農状況	<input type="checkbox"/> ① 営農している				
	《主たる経営作物》 ※複数回答可				
	<input type="checkbox"/> 米	<input type="checkbox"/> 米以外の穀物			
	<input type="checkbox"/> 露地野菜	<input type="checkbox"/> 施設野菜	<input type="checkbox"/> 花き・花木		
	<input type="checkbox"/> 果樹	<input type="checkbox"/> 畜産			
<input type="checkbox"/> ② 農地を所有しているが、営農していない					

II 農業後継者の状況について（全員回答）

農業 後継者	<input type="checkbox"/>	① 後継者がいる						
		氏名			年齢			
		お住まい			※市区町村までで結構です			
		続柄			※子、甥など			
		現在の状況	<input type="checkbox"/>	農業に従事	<input type="checkbox"/>	農業以外に従事	<input type="checkbox"/>	就学中
			<input type="checkbox"/>	将来農業を継ぐ予定				
	<input type="checkbox"/>	② 後継者はいない						

III 概ね10年後の農業経営の意向（全員回答）

※1 ページ「現在の営農状況」で「②農地を所有しているが営農していない」と答えた方は、3 ページ 設問IV「農地や農作業委託の意向について」にお進みください

1 今後の農業経営の意向（全員回答）

今後の農業経営に関する意向を教えてください。	<input type="checkbox"/>	① 経営規模を拡大する → 2 へ
	<input type="checkbox"/>	② 経営規模を縮小する → 3 と IV へ
	<input type="checkbox"/>	③ 経営規模は現状維持とする → IV へ

2 経営規模の拡大方法

（「1 今後の農業経営の意向」で「① 経営規模を拡大する」を選択した方のみ回答）

(1) 経営規模を拡大する時期はいつ頃ですか。	<input type="checkbox"/>	① 1年～5年		
	<input type="checkbox"/>	② 6年～10年後		
(2) 経営規模を拡大する場合の農地の範囲はどこがいいですか。	<input type="checkbox"/>	① 自宅周辺		
	<input type="checkbox"/>	② 耕作している農地の周辺		
(3) 経営規模を拡大する方法はどのような方法ですか。	<input type="checkbox"/>	① 農地を購入する	<input type="checkbox"/>	③ 農作業を受託する
	<input type="checkbox"/>	② 農地を借りる		
(4) 今後経営規模を拡大したい地目を選択し、() に拡大面積を記入してください。※複数回答可	<input type="checkbox"/>	① 田 (a)	<input type="checkbox"/>	② 畑 (a)
	<input type="checkbox"/>	③ 樹園地 (a)		
	<input type="checkbox"/>	④ その他 (地目) (面積 a)		

3 経営規模の縮小について

（「1 今後の経営の意向」で「② 経営規模を縮小する」を選択した方のみ回答）

(1) 経営規模を縮小する時期はいつ頃ですか。	<input type="checkbox"/> ① 1年～5年	
	<input type="checkbox"/> ② 6年～10年	
(2) 経営規模を縮小する方法はどのような方法ですか。	<input type="checkbox"/> ① 農地を売る	<input type="checkbox"/> ③ 農作業を委託する
	<input type="checkbox"/> ② 農地を貸す	<input type="checkbox"/> ④ 第三者継承する

※農業経営の第三者継承・・・単に農地や機械・施設だけでなく、作物の栽培や飼養管理の技術、経営管理のノウハウ、販路、地域における役割などを「経営資産」としてとらえ、これらを血のつながらない第三者へ引き継ぐこと

IV 農地や農作業委託の意向について（全員回答）

※ ①または②のいずれか1つを選択して理由を記入してください。

(1) 農地を貸し借り又は売買する際に農地バンク（農地中間管理機構）を活用したいと思いませんか。	<input type="checkbox"/> ① 活用したい				
	<input type="checkbox"/> ② 活用したくない 【理由】				
(2) 地域の農地を働きやすくまとめるために農地の交換をしてもいいとお考えですか。 （現在の農地と同じような土地条件の農地）	① 農地を交換してもいい				
	<input type="checkbox"/> ② 農地の交換はしない 【理由】				
(3) 農作業の委託状況を教えてください。今後農作業委託を希望される場合は、その作業内容を教えてください。	<input type="checkbox"/> ① 農作業を委託していない				
	<input type="checkbox"/> ② 農作業を委託している <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">委託者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>委託内容</td> <td></td> </tr> </table>	委託者名		委託内容	
	委託者名				
	委託内容				
<input type="checkbox"/> ③ 今後、農作業委託を委託したい					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">作業内容</td> <td></td> </tr> </table>	作業内容				
作業内容					

◆ 調査票の提出方法について

<p>(1) 紙面(本調査票)による提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お住まいの地区公民館に専用の回収箱を設置しておりますので回収箱に投函願います。 ・紫波町役場庁舎2階の農政課、農業委員会事務局窓口に直接お持ちいただいても構いません。 	
<p>(2) 電子メールによる提出</p>	<p>① 紫波町農政課宛てに、表題を「農業経営意向に関する調査票の配布について」とし、本文中に氏名・住所・連絡先・調査用個人コード(数字8桁)を明記した電子メールを送信願います。</p> <p>② メールを受領後、調査票A・Bのファイルを添付して返信します。</p> <p>③ 調査票に記入後、調査票を添付して再度農政課に送付願います。</p> <p>紫波町農政課メールアドレス chiiki-p@town.shiwa.iwate.jp</p>	
	<p>※こちらのQRコードからメール送信フォームにジャンプします</p>	

◆ 調査票の提出期限について

<p>提出期限</p>	<p><u>令和6年1月31日(水)までに提出願います。</u></p>
-------------	--------------------------------------

◆ 調査票に関する問い合わせ

<p>意向調査に関する こと</p>	<p>お住まいの地域の農業委員又は農地利用最適化推進委員</p>	
<p>地域計画、目標地 図に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農政課農政企画係 ・農業委員会事務局 	<p>019-672-2111 (内線2231) " (内線2171)</p>

産業政策監調査研究報告 第30号

紫波町の地域計画作成に向けた農業経営の意向調査の分析Ⅰ

～ 今後の営農意向調査の町合計と旧町村単位の集計とグラフ化 ～

執 筆 農村政策フェロー 小川勝弘

2024年6月発行

発 行 岩手県紫波町 産業部 産業政策監

連絡先 〒028-3392 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目3番地1

電話 019-672-2111（代表）

紫波町ホームページ <https://www.town.shiwa.iwate.jp/>

本調査研究報告書の無断転用・使用はできません。本調査研究報告書の内容を使用する場合は、事前の許可が必要です。